546
211

始

國際貿易と金融

ドクトル・オヴ・フキロソフキー
(ブリンストン大學)
服部文四郎 述

文明協會刊行

國際貿易と金融

ドクトル・ヴォルフロソノキー
(ブリンストン大學)
服部文四郎 述

文明協會刊行

大正
15. 8. 3
内交

例言

□世界大戰後に於ける世界の經濟界が如何なる狀態にあつたか、またありつつあるか、世界の通商貿易に非常なる變化が來し、文明各國の利害が益〻接近して來た。したがつて世界各國間の金融問題が重要視せられて行く時、吾々はこれらに對する眞の知識を備へておくことは現在のこの時代にあたつて當然の要であると云はなければならない。

□單に世界各國間に於ける財政上、經濟上、または通商上の關係が益〻密接になつて行くといふところにその重視すべきものがあるのみならず、吾々は一層吾が日本の經濟政策、貿易狀況、金融界狀況等を他の諸國のそれと比して見なければならない。それ卽ち吾が日本の貿易の發展、金融界の振興の基礎でなくばならない。

□玆に於て、本會は服部教授に乞ふて「國際貿易と金融」の一書を執筆していただくこととしたのである。卽ち世界大戰後の國際貿易の狀況また各國の金融政策竝びに貿易金融の現狀が詳述せられ更にこれら世界の貿易金融と吾が國の財界との關係が說かれ、ひいては我が國の國際貿易金融の改善が說かれてある等、吾々の傾注すべき文字である。

□たゞ本書は六月中に刊行さるべき筈のところ、豫定の順次の變更があつたりしたために八月刊行の豫定のものを繰上げたので今日までの遲刊になつたことはこれを諒として頂きたい。

大正十五年七月

文明協會識

546-211

目次

第一　國際貿易と我が財界との關係……（一）

一　國際貿易と我が財界……（一）

二　世界大戰爭と我が財界……（三）

イ　交戰國に依賴せし供給の杜絕……（四）

ロ　交戰國の軍需品の需要……（六）

ハ　交戰國の植民地若くは外國の需要增加……（八）

ニ　交戰國の需要……（一八）

三　世界大戰爭と輸出超過……（二三）

四　輸出增進と物價……（二七）

五　物價騰貴と通貨信用の膨脹……（二九）

六　所謂在外正貨と通貨……（三〇）

七　物貨騰貴と好景氣……（四三）

八　貿易以外の受取勘定と國際貸借勘定……（四四）

九　國際債權の增加と貨幣の對外價値……（四六）

十　財界の好景氣と事業熱……（四九）

十一 財界の好景氣と投機熱……（五〇）
十二 財界の好景氣と泡沫會社の濫設……（五二）
十三 財界の好景氣と其の反動……（五八）
十四 輸入超過と財界の不景氣……（六四）
十五 財界景氣回復と輸出振興……（六五）

第二 國際貿易と金融政策……（七五）
一 國際貿易振興に關する經濟上の諸政策……（七五）
二 戰前獨逸の經濟的海外發展と國際貿易金融政策……（七八）
三 國際貿易の奬勵と米國の國際貿易金融政策……（八三）
四 國際貿易の奬勵と英國の國際貿易金融政策……（八六）
五 國際貿易の奬勵と佛國の國際貿易金融政策……（九四）
六 國際貿易の奬勵と獨逸の國際貿易金融政策……（九八）

第三 我が國際貿易金融の現狀……（一〇一）
一 總說……（一〇一）
二 國際貿易金融と荷爲替及信用狀……（一〇一）
三 國際貿易金融とマーヂン……（一〇四）

四 國際貿易金融の期限……（一〇五）
五 國際貿易金融の金利……（一〇六）
六 國際貿易金融と前貸制度……（一〇八）
七 新市場に對する輸出手形の金融……（一一〇）
八 我が國際貿易金融の得失……（一一一）

第四 我が國際貿易金融の改善……（一一五）
一 我が國際貿易金融改善の重心……（一一五）
二 我が國際貿易金融と重要輸出品工業組合竝に輸出組合……（一一七）

第五 我が國に於ける國際貿易金融機關……（一二一）

第六 我が國際貿易金融機關の改善……（一二八）
一 總說……（一二八）
二 國際貿易金融機關の特設……（一二九）
三 既存國際貿易金融機關の改善方法……（一四二）
四 横濱正金銀行の改善……（一四四）
五 臺灣銀行竝に朝鮮銀行の横濱正金銀行合併……（一四八）
六 日本興業銀行の改善……（一五二）

七 普通銀行の改善……（一五六）
八 國際貿易金融資金の充實……（一五七）
九 國際貿易金融機關の業務……（一六四）

目次終

欠

其の當時、染料のストックを有せしものに豫期せざる意外なる巨利を博せしめ所謂成金を生ぜしめた。世界大戰爭當時、我國に成金なるもの發生したりしが、其の最初は實に染料成金であつたのである。昔から成金は或は千兩に相場の定まつて居たものであるかも知れない。斯くして發生したる成金は豫期せざりし巨利を占め、全く僥倖を贏ち得たるものなれば、Easy money goes easy で、其の獲得したる利益を以て、或者は奢靡的に之を浪費するに甘んじ、或者は其の事業を擴張して更らに大なる利益を占めんとし、或者は投機的に新たなる買占めを行ふの行爲に出でた。其の孰れたるを問はず、凡て財に對する需要を增加するものなれば、此等の行爲は轉て物價を騰貴せしむることゝなり、物價の騰貴は此處に更らにそれだけより多くの利潤を生ぜしむることゝなるが故に一般に財界は愈々好況に赴くことゝなつたのである。

以上述べたる所は世界大戰爭が國際貿易の關係を通じて、我が當時の財界を

欠

振興せしめたる先づ第一の事情である。併しながら其の作用たるや消極的で、敢て積極的に我が輸出貿易を未だ増加せしむるに至らざりしとは云へ、世界大戰爭に依り國際貿易の關係を通して我が經濟界に取り敢へず好影響を與へたりしは、何人も拒むこと能はざる明白なる事實であらう。而して茲には先づ第一に其の適例として染料を擧げしも、當時染料成金の外に鐵成金、竝に船成金の輩出したりしは、今尚ほ世人の記憶に新たなることゝ思はれる。此等、船舶竝に鐵等も其の關係及び理論は右染料に就て述べたる所と敢て異なる所は無いのである。從て別に詳述するの必要は認められないであらう。

（ロ）交戰國の軍需品の需要

次に常に我が國が其の供給を外國に仰ぎたりしものゝ、世界大戰爭の爆發と共に其の供給を杜絶せしめられしに相次いでと云ふよりは寧ろ其れと殆んど同時に起りたりしは交戰國よりの軍需品の需要である、注文である。卽ち戰爭開

始と共に露國よりは夥しき靴、銃砲及び彈藥等の注文があり、其の金額は夥しき巨額に達した。素より此等の莫大なる金額に達したる露國の注文、殊に其の賣り掛け代金は信用貸となり、終に露國の內亂、潰崩と共に殆んど貸し倒れ同樣のものとなり、我が國內に於ては露國に對する民間の貸付金は政府に於て低利資金を融通して日露實業會社を創立せしめ、一種の肩換りをなして漸く之を始末し、露國に對しては屢々の交涉、會議に於て之れが返濟の要求を怠らざりしも終に得る所なく、ソビエット政府はロマノフ王朝當時の政府の債務を頑强に承認せず、國際法上、甚だ不穩當には思はるれども、今や如何ともなすこと能はざる狀態に陷いつて居る。之れ國際放資上甚だ遺憾なりと云ふべきである。國家も個人と同じく、一旦債務を負ふも、之が返濟を爲さゞらんと欲すれば理窟は如何樣にも付き、强硬なる强制手段なき以上、終には其の債務を免るゝことゝなるものである。そは兎に角、當時、交戰國よりの軍需品の注文は相當多額に

上り、其れだけ我が財や勞力に對する需要を增大したるもので、物價竝に賃銀の昇騰に向ふべき趨勢を馴致し、物價竝に賃銀の騰貴は此處に其れだけ多くの利益を獲得するものを生ぜしめ、殊に當時は此等の賣掛金が貸倒れとなるべしとは夢にも想はざりしものなれば、我が財界を刺激し、上景氣となるの原因となりしものである。而して此の交戰國よりの軍需品の需要は前項に述べたる消極的なる供給の杜絶と異なり、實質的に積極的に我が輸出を增加せしめたるものである。

（八）交戰國の植民地、若くは外國の需要增加

世界大戰爭は其の破裂當時、多くの人々が其の前途、若くは其の繼續に關して思考したりし豫想を全然裏切り、其の舞臺は益々擴大し、何時、其の終了を見るや、殆んど想像すること能はざる勢となつた。戰爭の進行と共に交戰諸國は種々なる物資を必要とし、就中、軍需品は戰爭に從事する以上、必要缺くべ

からざるものである。茲に於て交戰諸國は此等、軍需品の製造に忙がしく、苟も多少にても工業發達し、製造工場を有する處にありては普通の經濟財を生產する工場を俄かに變じて軍需品の製造に當らしめ、以て國家の運命を賭すべき戰爭の絕對的なる必要に應ずることゝした。其の結果は普通一般消費財の生產不足である。素より戰爭に伴ふ必要は當時、國家至上の必要なるが故に他の如何なるものをも犧牲に供せざるを得ざりしとは云へ、製造工業も亦、國家の一重要なる要素で、且つ世界大戰爭の如き其の繼續數年に亘る大戰爭にありては戰爭の勝敗は單に所謂武力によりて決せらるゝにあらずして、窮局する所、其の戰爭に堪へ忍ぶべき經濟力の强弱に依據する所甚だ大なるが故に、如何に軍需品の急需、緊切なりとも、濫りに製造工業の進行を阻止し、之を妨害することは許されぬ。之を以て普通經濟財の生產に從事しつゝありし製造工場を軍需品の製造場として利用し、之に轉換するに當りては之を其の必要の最小限度に

止めなければならぬ。然らざれば其の經濟の運行、並に其の發達を阻礙するの結果に陷るの虞がある。

交戰諸國は其の製造工場をして軍需品の製造に從事せしむるに當りては大に此處に注意し、所謂、工場動員を行ふものゝ、國內に於て必要とし、消費せざるべからざる所のものは成る可く、其生產を繼續せしめ、之れが製造工場を軍需品の製造に轉換せしむるが如きことに能ふ限り之を避くるに努めなければならなかつた道理である。其の故奈何となれば、縱令軍需品にあらざるものなりとするも、國內に於て絕對的に大に必需なりとする所のものゝ製造を阻止し、中止せしむるときは、其の慾望の消滅せざる限り、之に對する需要あり、勢ひ外國より其の供給を仰ぎ、輸入せざるべからざるに立ち至るからである。然るに國內に於て生產し得るものであるにも拘らず、外國より輸入するときは、勿論其の對價を外國に支拂はねばならず、戰爭遂行の必要上、種々なる物資を必要

とし、之れが供給を外國に仰ぎて對外支拂はいやが上にも膨脹しつゝあるの際國內に於て製造し、供給し得るものまでも之が輸入をなすときは、對外債務は愈々增大し、結局、其の支拂の爲めに正貨を外國に現送し、正貨準備を大に減少せしめなければならなくなる。正貨準備の減少は唯さへ戰爭の爲めに動搖し易き信用の基礎を薄弱ならしめ、一般に疑懼の念を增長するの惧がある。素より交戰國によりては開戰と同時に紙幣の兌換を停止するに至りしものあり、兌換の停止は兌換の爲めに直接正貨を維持するの必要を少なからしめたるものなりと云はれざるにもあらざれど、兌換停止せられし後にも交戰諸國は正貨の維持に汲々たりしにても知らるゝが如く、對外支拂、並に信用維持の上に正貨は飽迄も必要であり、之れが減少は大に防止せられなければならなかつたのである。正貨の減少は好まれなかつた。よしや、又假りに正貨の減少を憂へず、物資を外國より輸入するとするも、當時、船腹の缺乏は殆んど極度に達し、之を運

搬するの方便なく、又其の上、よしや、假りに船腹の餘裕あり、之を運搬せんとするも、當時、海上の危險は一國に必要なる物資の供給を容易に外國にのみ依賴するを許されなかつた。從て交戰諸國は縱令、平素の製造工場をして軍需品の製造に從事せしむべき喫緊なる必要に迫られながらにも國內に於て必要とする軍需品以外の普通の經濟財の生產を中止せしむること能はず、其の製造は之を繼續せしめ、唯々其の植民地若くは外國の需要に應ずべき輸出品の生產に限り漸次之を制限するの方法に出づる外はなかつた。之れ普通の製造工場を軍需品の製造に轉換せしむる所謂當時の最初の工場動員の最小限度であつたのである。而して當時は自國の製造品を外國若くは植民地に輸出するに當りては恰も自國に於て必要とする物資を外國より輸入すると同じく船腹の缺乏と海上運搬の危險との不便は共に到底免るゝこと能はざりしものである。

交戰諸國、殊に工業國に於ては、かるが故に、其の植民地、若くは外國に從

前輸出したりし財の生產を漸次に制限して、之を軍需品の製造に轉換せしむることとなり、其の輸出を杜絕せしめしか、或は大に減少せしむるに至りしを以て此等の外國並に植民地は俄かに物資の缺乏を感じ、大なる不便苦痛を忍ばざるを得ざるに至つた。其の事情は恰も右(イ)に於て述べたると同樣で、世界大戰爭開始當時、我國に於ては染料並に鐵等の輸入杜絕し、其の供給缺乏し、大なる不便を感じたるに髣髴たるものがある。供給の缺乏は價格の暴騰である。價格の暴騰は普通ならば此等の外國並に植民地に於て其の生產を奬勵すべき筈なるも、技術の發達之に伴はず、されば、とて技術は一朝一夕に其の完成を期し難く、加ふるに價格の暴騰は世界大戰爭に依る供給の杜絕を其の原因とするものなれば、戰爭にして終了し、其の原因にして消滅するに於ては再び低廉なる物資の輸入を見るに至るべく、之と競爭すること能はず、且つ戰爭は何時、終了するや、何人も之を豫想すること極めて困難なりしが故に、不安定なる基礎の上に

事業を經營することを危み、進んで生産に從事するもの少なく、物資の缺乏、價格の暴騰は容易に之を緩和する事能はざりしものである。素より右の如き場合、事業を計畫し、生産に從事し、而も戰爭終了して再び外國品の輸入を見るに至り、其輸入品は價格低廉にして到底之と競爭すること能はず、折角經營の緒に就かんとしたる事業も再び外國の競爭の壓迫に堪へ兼ねて、無殘や、其經營を繼續すること能はず、失敗の憂目を見ざるべからざる運命に陷りたる場合には國稅の障壁を設けて、之れが輸入を防止し得ざるにもあらざれども、植民地に於ては母國の關係を離れて自由に其關稅定率を改訂するを許されず、又普通に外國は自由に關稅率を更改し得べしとするとも、其中には協定されたる關稅あり、又外國品の輸入を防遏するが爲めに禁止的なる高率なる關稅を課するときは徒らに內地の物價を騰貴せしむる虞あり、獨り關稅のみに依りて外國の競爭品の輸入を防止するは甚だ困難である。又賢明なる經濟政策なりと云ふこ

とは出來ね。

斯樣な事情に基き、交戰國の植民地、若くは戰前交戰國より物資の供給を受けたりし諸國は世界戰爭の爆發と共に其の物資の供給を受くること能はざるに立ち至りしも、さればとて自ら此の種の物資の生産に大膽に且つ勇敢に手を染むることも叶はず、勢ひ中立國中の工業國に其の需要を向け、供給を其處に仰ぐの外なきに至つた。中立國の輸出貿易が大に振興せられたりしは此の情勢に依るのである。我が國は素より國際法上、世界大戰爭に對し中立國ではなかつた。聯合國側に加盟し、同盟國の獨逸を敵とし、或は青島に、或は地中海に、或は濠洲に世界戰爭を戰つた。陸海共に交戰國であつた。併しながら交戰國なりとは云ふものゝ、事實上に於ては我が國が世界大戰爭に參加し、戰爭らしき戰爭をなしたるは獨り獨逸軍を敵とし、青島に於ける獨逸軍並に獨逸勢力を追ひ拂ひ、後に世界平和會議に於て支那の猛烈なる宣傳に逢ひ、少なからず外交

上の困難を釀せしも、兎に角之を占領したる場合に殆んど限られて居た。其の他は我が國は實は中立國の地位を維持したるものである。戰爭の舞臺餘りに遠方でもあり實質上多く之に參加せざりしものである。玆に於て我が國は實質上中立國として世界到る處より夥しき注文を受け、其の製造と輸送とに甚しく多忙を極めた。我が輸出貿易は非常なる勢を以て進展したるものである。其れも其の筈で、戰前の世界の主要なる工業國は今や殆んど凡て世界大戰爭の未曾有なる交戰國となり、右既に述ぶるが如く、交戰國の植民地や其他の外國に物資を輸出すること能はざる狀態に陷り、米國を除かば、外國に物資を製造し供給し得べき地位にある、進みたる工業國は殆ど獨り我國あるのみとなつたのである。輸出の增進や寔に當然のことである。卽ち我が國には支那、南洋は勿論、英國の植民地たる印度、遠くは南米の諸國より各種の物資に對する注文輻輳し我が輸出貿易は非常なる勢を以て進展した。我が輸出品は實に大手を振つて國際市

場を濶步し、其の販路は坦々たる大路を行くが如くに擴張せられた。而して其の著しき一例を擧ぐれば、當時、英國より我が國に莫大小の注文ありしこと之である。莫大小はマンチエスター・グーツとして英國の特產品である。然るに其の英國より我が國に其の特產品たる莫大小の注文ありしことなれば、最初、人の大に之を怪しみしは敢て無理からぬことである。但し此の莫大小は英國の注文なればとて始めは英國人が其の本國に於て消費せんとしたるにはあらずして、英國は其の特產品たる莫大小を從前、其の需要者たる植民地若くは其他の外國に輸送せんと欲するも、(イ)生產の減少、(ロ)船腹の缺乏、(ハ)、海上輸送の危險等の事情より之が供給をなすこと能はざりしにより、之を我が國に買付け、我が國の生產品を我が國より直ちに從來の其の取引先に送付する方法を執つたのである。此等の需要も相當莫大なる金額に達した。而して斯くする內に此等の植民地や外國は直接に我が國、我が市場に注文をなすことゝなり、我が生產品

に對する需要は大に增進することゝなつた。例へば英國は其のマンチエスターグーヅを戰前大に支那に輸出し、支那は英國の好得意先にて、我が綿絲布の支那に對する輸出は此の英國の强大なる競爭の壓迫を感じつゝありしものなるが戰爭中、支那の需要は以上既に述べる理由に依り、大部分我が國に注がれ、我が棉絲布の支那に對する輸出は俄かに增進し、終には英國生產品の支那に於ける市場を奪ひ去ることゝなつた。之れ在支其他支那貿易に直接間接に關係ある英國人が、大に我が國を嫉視したる所以で、後に青島問題、或は同盟問題に關し、米國人と共に或る種の災を我が國に及ぼしたる原因をなしたるものである。

我が輸出貿易は孰れにもせよ、非常なる勢を以て殷賑の狀を呈するに至つた。之れが一般我が財界に極めて重要なる影響を及ぼすべきや敢て云ふ迄もない。

(二) 交戰國の需要

世界戰爭の進行と共に交戰諸國は益々軍需品の必要を痛感するに至つた。最

初の內は工場動員を行ひ、普通の財の生產に從事したりし工場を軍需品の製造に轉換せしむるに當りても、國內の需要は成るべく自國製造品を以て之を充たすを怠らず、僅かに其植民地若くは外國に輸出すべき部分の生產を制限し、其の需要を他の中立國、若くは事實上、中立國と同樣なる地位にある國々に向はしむるに止りしも、今や戰爭の進行に伴ふ軍需品の必要は終には自國內に於て消費さるべき財の生產をも漸次制限せざるべからざるに至つた。國家の運命を賭すべき戰爭の必要は他の何物をも之に對抗することを許されないのである。茲に於て此等交戰國が其の自國內に於て消費すべき財の不足は之を外國の供給に仰がざるを得ざるに立ち至り、漸次其の注文は外國に向つて發せらるゝことゝなつた。素より斯る場合此の種の注文は多く交戰國々內に於ける國民生活の絕對的必需品ではなく、稍や奢靡的に亘るものか或は便宜品に止りしは敢て云ふ迄もない。國民生活に絕對的に必要なるものを戰時、輸送の困難且つ危險多き

際主として外國の供給に待つは甚だ危險なことである。而して我が國にも此の種の注文は相當に發せられ、其需要を充たすべく、我が輸出は益々增加した。

當時のことである。我が國は英國より夥しき莫大小、並にこれも亦英國の特産品たる文房具の注文を受けた。此等の注文は最初は前項に述べたる英國が我が國に買付け、之を英國の植民地、若くは戰前英國の得意先たりし外國に送付するものなりとのみ思惟せられて居た。然るに此等の文房具、並に莫大小は植民地或は外國に送付せらるゝにはあらずして、英本國に送り付け、英國に於て消費せらるゝものとなつたのである。戰前、何人が、英國の特産品たる文房具や莫大小を我が國より英國に輸出し、我が生産品を英國人に着せ又使用せしむと思惟した人があらう。英國に於ける工場動員は終に斯の種の財の生産までをも之を制限し、其の供給を我國に仰がざるを得ざるに至らしめたのである。然るに英國にては此等の生産者は我が國よりの輸入及び其の競爭を恐れ、殊に文

房具商、並に其の製造業者は相團結して、我が輸入を防遏せんとし、其一手段として關稅を引上げんことを當時の當局者に要請したる事實がある。茲に於て我が國の當業者は又、我が政府當路に對し、之れが反對方法を執るべきことを要求し、對抗運動や陳情を試みた。時恰も、而して幸にも我が國は英國政府に對し一億圓を貸付けんとしつゝありし際なりしに依り、之が交換條件として其の緩和方法を講じ得ることゝなつた。之れ大方、世間周知の事實で、尙ほ記憶せらるゝことである。

斯くして交戰諸國よりの普通の財に對する需要は戰爭の進行と共に益々增加し、我が輸出貿易は愈々進展し、大に增進することゝなつた。此等凡て戰爭の影響で、此の影響は國際經濟、主として國際貿易の上に現はれ、我が國に及び來つたのである。

三　世界大戰爭と輸出超過

以上述べたるイ、ロ、ハ、ニの內、唯獨り、イは世界大戰爭のため戰前、我が國が外國の供給に依賴したりしものを輸入すること能はざるに至り、卽ち供給の杜絕に依り、我が物價を騰貴せしめたる消極的作用を有したるものなるも、其の他のロ、ハ、ニは悉く積極的に皆な我が輸出貿易を奬勵し、大に我が輸出を增進せしめたるものである。此の輸出の躍進は實に大正三年より同七年迄の間に於て十四億圓の輸出超過を實現せしめたるものである。由來、我が國は明治初年以來、國際貿易は殆ど輸入超過の一方に偏する國で輸出超過の現勢を示せるは寧ろ甚だ稀なのである。斯る我が國の對外貿易が世界大戰爭の影響なりとは云へ僅かに四ヶ年の短日月の間に於て一躍、十四億圓の輸出超過を示せるは之れ極めて重大事件で、我が國民經濟一般に甚だ重要なる影響を與へたるや

敢て怪しむに足らないのである。今試に明治初年以來の我が國際貿易の趨勢を示さば左表の此くである。

輸出入價額對照表

年次	輸出	輸入	合計	輸入超過	輸出超過
明治元年	一五、五五三、四七三円	一〇、六九三、〇七二円	二六、二四六、五四五円		四、八六〇、四〇一円
二	二三、九〇八、九七八	二〇、七八三、六三三	四三、六九二、六一一	七、八七四、六五五	
三	二四、五四〇、〇一三	二三、七四一、六二七	四八、二八四、六五〇	一九、一九八、六二四	
四	二七、九六八、六〇九	二一、九一六、七二八	三九、八八五、三三七	三、九四八、一一九	
五	二七、〇二六、六四七	二六、七七四、八一五	四三、一〇一、四六二	九、一四八、一六八	
六	二一、六三五、四四一	二八、一〇七、三九〇	四九、七四二、八三一	六、四六一、九四九	
七	一九、三二七、三〇六	二三、四六一、八一四	四二、七七九、一二〇	四、一四四、五〇八	
八	一八、六二一、一二	二九、九七五、六二八	四八、五八六、七三九	一一、三六四、五一七	
九	二七、七二一、五二八	二三、九六四、六七九	五一、六七六、一〇七		三、七四六、八四九
一〇	二三、二四八、五三三	二七、四二〇、九〇三	五〇、七六九、四二五	四、〇七二、三八一	
一一	二五、九八八、一四〇	三二、八七四、八三四	五八、八六二、九七四	六、八八六、六九四	

一二	二八、一七五、七七〇	三三、九五五、〇〇二	六一、一二八、七七二	四、七七七、一三二	
一三	二八、三九五、三八七	三六、六二六、六〇一	六五、〇三一、九八八	八、一三一、二二四	
一四	三一、〇五八、八八八	三一、一九一、一二四六	六二、二五〇、一三四	一三一、一五八	
一五	三七、七二一、七五一	二九、四四六、五九四	六七、一六八、三四五	八、二七五、一五七	
一六	三六、二六八、〇二〇	二八、四四四、八四三	六四、七二三、八六二	七、八二三、一七八	
一七	三三、八七一、四六六	二九、六七二、六四七	六三、五四四、一一三	四、一九八、八一九	
一八	三七、一四六、六九一	二九、三五六、九六八	六六、五〇三、六五九	七、七八九、七二三	
一九	四八、八七六、三二三	三二、一六八、四三二	八一、〇四四、七四五	一六、七〇七、八八一	
二〇	五二、四〇七、六八一	四四、三〇四、二五二	九六、七二一、九三三	八、一〇三、四二九	
二一	六五、七〇五、五一〇	六五、四五五、二三四	一三一、一六〇、七四四	二五〇、二七六	
二二	七〇、〇六〇、七〇六	六六、一〇三、七六七	一三六、一六四、四七三	三、九五六、九三九	
二三	五六、六〇三、五〇六	八一、七六八、五八一	一三八、三三二、〇八七		
二四	七九、五二七、二七二	六二、九七七、二六八	一四二、四五四、五四〇	二五、一二五、〇七五	
二五	九一、一〇二、七五四	七一、三六八、〇八〇	一六二、四二八、八二四		
二六	八九、七一三、八六五	八八、二五七、一七二	一七七、九七〇、〇三七	一六、六〇〇、〇〇四	
二七	一一三、二四六、〇八六	一一七、四八一、九五五	二三〇、七二八、〇四一	一九、七七六、六七四	
				一、四五五、六九三	
				四、二三五、八六九	

二八	一三六、一二二、一七八	二九、一二〇、五七八	二六五、三七二、七五六		
二九	一一七、八四二、七六一	一七一、六七四、四七四	二八九、五一七、二三五		
三〇	一六三、一三五、〇七七	二一九、三〇〇、七七二	三八、二四三五、八四九		
三一	一六五、七五三、七五三	二七七、五〇二、一五七	四四三、二五五、九一〇		
三二	二一四、九二九、八九四	二三〇、四〇一、九二六	一三〇、四〇一、九二六		
三三	二〇四、四二九、九九四	二八七、二六一、八四六	二八七、二六一、八四六		
三四	二五三、三四九、五四三	二五五、八一六、六四五	二五五、八一六、六四五		
三五	二五八、三〇三、〇六五	二七二、七三二、二五九	二七二、七三二、二五九		
三六	二八九、五〇二、四四二	三一七、二三五、五一八	三一七、二三五、五一八		
三七	三一九、二六〇、八九八	三七一、一六〇、七三八	三七一、一六〇、七三八		
三八	三二一、五三三、六二〇	四八八、五三八、〇二七	四八八、五三八、〇二七		
三九	四二三、七五四、八九二	四二八、七八四、一〇八	四二八、七八四、一〇八		
四〇	四三三、四二三、八七三	四九四、四六七、三四六	四九四、四六七、三四六		
四一	三七八、二四五、六七三	四三六、二五七、四六二	四三六、二五七、四六二		
四二	四二三、一二三、五一一	三九四、一九八、八四三	三九四、一九八、八四三		
四三	四五八、四二八、九九六	四六四、二三三、八〇八	四六四、二三三、八〇八		
				六、八五一、六〇〇	
				一八、九二三、六六八	
				五、八〇四、八二二	
				四、九七〇、七八四	

四四	四四七、四三三、八八八	五一三、八〇五、七〇五	九六一、二三九、五九三	六六、三七一、八一七		
大正一	五二六、九八一、八四二	六八八、九九二、二七七	一、一四五、九七四、一一九	九二、〇一〇、四三五		
二	六三一、四六〇、二一三	七二九、四三一、六四四	一、三六一、八九一、八五七	九六、九七一、四三一		
三	五九一、一〇一、四六一	五九五、五三七、七二五	一、一八六、八三七、一八六	四、六三四、一六四		
四	七〇八、三〇六、九九七	五三二、四四九、九三八	一、二四〇、七五六、九三五		一七五、八五七、〇五九	
五	一、一二七、四六八、一一八	七五六、四二七、九一〇	一、八八三、八九六、〇二八		三七一、〇四〇、二〇八	
六	一、六〇三、〇〇五、〇四八	一、〇一五、八一一、一〇七	二、六三八、八一六、一五五		五六七、一九三、九四一	
七	一、九六二、一〇〇、六六八	一、六六八、一四三、八三三	三、六三〇、二四四、五〇一		二九三、九五六、八三五	
八	二、〇九八、八七二、六二七	二、一七三、四五九、八八〇	四、二七二、三三二、四九七	七四、五八七、二六三		
九	一、九四八、三九四、六一一	二、三三六、一七四、七八一	四、二八四、五六九、三九二	三八七、七八〇、一七〇		
一〇	一、二五二、八三七、七一五	一、六二四、一五四、八三二	二、八六六、九九二、五四七	三六一、三一七、一一七		
一一	一、六三七、四五一、八一八	一、八九〇、三〇八、一三二	三、五二七、七六〇、〇五〇	二五二、八五六、四一四		
一二	一、四四七、七五〇、七二〇	一、九八二、一三〇、五七〇	三、四二九、九八一、二九〇	五六四、四七九、八五〇		
一三	一、八〇七、〇三五、〇〇〇	二、四五三、四〇二、〇〇〇	四、二六〇、四三七、〇〇〇	六四六、三六七、〇〇〇		
一四	二、三〇五、五八七、〇〇〇	二、五七二、六五三、〇〇〇	四、八七八、二四〇、〇〇〇	二六七、〇六六、〇〇〇		

四　輸出增進と物價

世界大戰爭の影響を受けて著しく增進したる我が輸出貿易は其れ自身一の大なる需要增加で、需要の增加は供給之と共に增加せざるに於て必ず、物價を騰貴せしむる作用を持つ。我が物價は事實、又甚しき昇騰の趨勢を辿つた。否な寧ろ我が物價は年と共に暴騰したのである。今世界大戰爭破裂後に於ける日本銀行調査に依る我が物價の指數竝に大正三年七月を百とする日、英、米、佛の物價指數の比較を示さば左表の如くである。

日本の物價の指數

大正三年	一二六平均
〃四〃	一二八
〃五〃	一五五
〃六〃	一九四

〃 七 〃					二五五
〃 八 〃					三一二
〃 九 〃					三四三
〃 一〇 〃					二六五
〃 一一 〃					二五九
〃 一二 〃					二六三
〃 一三 〃					二七三
〃 一四 〃					二六七
〃 一五 〃（一月）					二五四

各國物價指數の比較

	東京	倫敦	紐育	巴里（但し不換紙幣）
大正四年	一〇一、六	一二九、二	一二三、八	一三六、〇
〃 五 〃	一二二、九	一六八、三	一三六、八	一八六、五
〃 六 〃	一五四、七	三一四、四	一八〇、五	二五九、三
〃 七 〃	二〇二、六	二三六、〇	二一六、七	三三九、一
〃 八 〃	二四七、八	二四六、八	二一五、七	三五六、五

〃 九 〃	二七二、八	二九七、四	二一七、三	五〇九、七
〃 一〇 〃	二一〇、八	一九〇、一	一三一、三	三四五、〇
〃 一一 〃	二〇六、〇	一六七、三	一四〇、〇	三二六、四
〃 一二 〃	二〇九、五	一七〇、二	一五四、八	四二〇、二
〃 一三 〃	二一七、三	一八二、六	一四八、六	四九八、八
〃 一四 〃	二一二、二	一七四、八	一六一、一	五六一、三
〃 一五 〃（一月）	二〇二、二	一六三、三	一六一、九	

○五　物價騰貴と通貨信用の膨脹

物價暴騰すれば同じ量の財を交換するに於ても、其の財の價格の騰貴するに應じて其の取引の金額增大し、取引の金額の增大は其の取引媒介のためにより多くの通貨を必要とし、玆に通貨竝に信用の膨脹を促し、同時に我が輸出貿易の般賑、之に伴ふて現れたる右の如き巨額なる輸出超過は通貨竝に信用を大に膨脹せしむるを可能とした。卽ち我が莫大なる輸出超過は其れだけ國際貸借勘

定に於て我が受取るべき債權を多くするもので、我が國にして他に債務を負ひ當面、其の消却を迫らるゝものなき以上、我が國は其の支拂を求め得るものである。而して此の國際間の支拂は今日の國際經濟上、原則として國際貨幣と見做さるゝ正貨を以てなさるべきである。正貨とは云ふ迄もなく金で、我が國にして其の輸出超過を金を以て受取るに於ては我が國の正貨は勿論增加する。此の正貨は兌換劵發行に對する正貨準備となり、信用の基礎となる。又正貨準備の增加に基く兌換銀行劵の發行は素より制限を置かない。從て通貨竝に信用の膨脹となるや敢て別に論ずる迄もあるまいと念はる。

六　所謂在外正貨と通貨

然るに實際上、我が輸出超過は當時、正貨を現送せしめて之を受取ることをしなかつた。之れ主として輸送の危險に基くもので、我が八阪丸は正貨を積み

込み地中海に於て獨逸潛航艇の爲めに擊沈せしめられた。幸にも右の正貨は大正十四年之を我が國人の手に依りて引上ぐるを得たりしも凡ての海底に沈沒したる貴重品が常に安全に再び引揚げ得らるゝの保證はない。假りに確實に引揚げ得らるゝにしても其れが爲めには時間と勞力とを必要とし少なからざる費用を要するものである。之を以て我が輸出超過に基く對外債權は之を正貨を以て現送することなく、外國に信用を設定することゝした。換言すれば外國に於て受取りたるものは之を正貨として我が國に現送することなく、或は外國の銀行に預金し、或は比較的短期にして確實なる有價證劵を買入れ、之を外國に保管することゝしたのである。之れを一般に在外正貨と呼ばるる。但し在外正貨と呼ばるゝも實は正貨其の儘の形に於て外國に保管せらるゝものではない。又保管し得ない。其の故如何となれば正貨其の儘の形に於て保管せんと欲すれば之を外國の銀行或は信託會社に保護預けとするの外はない。自ら之を保管すれば

危險であり、且つ利子の損失がある。然るに保護預けとすれば利子の損失あるも其の上に手數料を支拂はねばならず、費用を要する。從て正貨其の儘の形に於て保管することは極めて不經濟なるが故である。在外正貨は正貨其物ではない。さりながら外國に對する預金は正貨にあらざるや敢て云ふ迄もなきことながら其の預金を引出さば其の國法貨にて支拂はるべく、兌換劵なる場合には正貨と引換ふことを得べく、兌換制度維持せられ、正貨輸出の禁止なき以上、外國銀行其他に對する預金は結局、正貨を以て之を自國に取り寄することが可能である。之れ正貨の形其物にあらずとも、而して其の名稱は決して適當なるものにあらず、寧ろ在外資金と稱するを適當なりとするも、一般に在外正貨なる呼稱ある所以である。確實にして短期なる有價證劵も亦同一の理法を以て說明せられ得る。但し之を縷述するの必要は毫も之あるを見ない。尤も戰時中、世界殆んど凡ての國々は兌換を停止し、又我が國が常に所謂在外正貨を保管しつゝあ

る英國も又米國も共に正貨輸出の禁止を行つた。然るにも拘らず當時、我が國に於ては尙ほ在外正貨の呼稱行はれ、在外正貨の存在するが如くに思惟せられしも、我が在外正貨を保管する國にして正貨の輸出を禁止したる以上は論理上、我が所謂在外正貨は當然、其の在外正貨たるの性質を喪失したるものなりしと云はざるを得ないのである。

其の孰れにもせよ、我が國際貿易の關係上、我が國に受取るべき對外債權は兎にも角にも在外正貨となつた。而して當時輸送の危險及困難、次いでは正貨輸出の禁止、若くは夥しき正貨の輸出入に伴ふ經濟上の動搖等の諸事情は對外債權は之を在外正貨とするの外はなかつたのである。然るに此の在外正貨の存在は其の效用、正貨と同じく我が通貨並に信用の膨脹を促すことゝなつた。其の故如何とならば在外正貨は久しく兌換銀行劵發行に對する正貨準備として計上され、在內正貨と全然同樣に取扱はれたるが故である。もとより在外正貨を

無條件に在内正貨と全然同一に取扱ふは不可なりとする議論も出來よう。立法の精神に違反するものなりとも云へよう。即ち今少しく具體的に云はゞ、我が中央銀行たる日本銀行に兌換銀行券を發行せしむる場合に先づ正貨を準備として次いで有價證券たる保證準備を有すべしと規定したるは保證準備と正貨準備とを備へ置くべきを命じたるを意味するもので、縱令其の備へ置くべき場所を明瞭に指示せずとも、常識的に考ふるも、日本銀行の金庫中に保管すべきは當然であらう。さるを日本銀行の法規の内に正貨準備を保管すべき場所を指示せざればとて外國に存在し保管せられあるものを日本銀行の金庫中に存在すと見做すが如きは明白に法の條文に觸れずとも法の精神に違反したるものなりと云ふことが出來よう。又我が國が所謂在外正貨を保管したる英國や或は米國が正貨の輸出を禁止したるにも抱らず尙ほ之を右の如く在内正貨と同樣なるものと見做し、之れを正貨準備として兌換券を發行せしむるは之れは正貨準備の性質を

全然無視するものなりと云ひ得よう。

茲に於て在外正貨に關しては種々なる論議戰はされ、我が國に於ては一般に在外正貨の制度を非とする方に世論が傾きて居る樣に見受けらるる。之を以ての故か、大正十二年、我が政府當局、殊に時の大藏省は從前日本銀行に於て在外正貨を正貨準備中に包含せしめたる制度を改め、以後之を禁じ、正貨準備は現實に日本銀行の金庫中に於て保管されつゝあるものに限ることゝした。一應は適當なる改正であらう。殊に在外正貨夥しき巨額に達し、通貨膨脹、物價騰貴の聲轟々たる際に於ては在外正貨を正貨準備中に繰り入れざることゝすれば其れだけ通貨を收縮せしむる方策となり、時に取つて適宜の金融政策なりと云ふことが出來よう。併しながら在外正貨の制度は我が國の世論一般が思惟するが如く劣惡にして有害なる制度なのであらうか。所謂在外正貨は之を我が國に取り寄せんとすれば正貨即ち金を我が國に現送せしむることを得べく、よしや

又現送せずとも直ちに外國の支拂に利用することを得て、其の效用は我が國より對外支拂の爲め正貨を現送したると何等異ならざる同樣なる結果を生ずるものである。甚だ便利なる制度である。現に世界戰爭當時には英國は加奈太のオタワ、及びトランスバールに正貨を置き之に對して銀行劵を發行せしめた。之れ云ふまでもなく立派なる在外正貨である。其の他金爲替本位制度を有する國國は其の制度の必然として外國、若くは植民地ならば其の母國に在外正貨を有し、又戰爭前の露西亞、スカンジナビヤの諸國、墺太利等、殆んど世界の凡ての國々と申してよき程、多數の國々は或は所謂在外正貨、若くは外國爲替手形等を兌換劵發行準備に充てしめ、而も此等の諸國に於ては之に對して我が國に於けるが如き非難攻擊盛なりしを聞かなかつた。

惟ふに在外正貨は制度其れ自體に缺點短所を有する劣惡なる有害なる制度なりと一概に早斷すること能はざるもので、我が國に於ても所謂在外正貨に對す

る非難攻擊は制度其物に對するにあらずして主として其の運用に關聯するが如く、議論は重もに其の應用方面にあるものと信ぜらるる。現に大正十二年在外正貨を我が日本銀行の正貨準備中に繰り入るゝの制度を改正して以來、我が國に於ては在外正貨非難の議論殆んど其の跡を絶つに至つた。而も在外正貨は今尙ほ存在するのである。是に依りて之を見れば我が國に於て在外正貨を非難し攻擊したりしは之を正貨準備として兌換銀行劵を增發し、通貨を膨脹せしめ、物價を暴騰せしめたりと云ふの點にあるのである。さりながら之とても在外正貨を在內正貨と同樣のものと見做さず、正貨準備に繰り入れずして之れより除外することゝするも、在外正貨は保證準備に加算せらるゝことが出來よう。卽ち我が國の保證準備は政府發行の公債證書、大藏省證劵、其他確實なる證劵又は商業手形に限らるゝものなるが、在外正貨の存在するを證明する證劵は「其他確實なる證劵」の部類に屬するもので、保證準備として使用せられ得べく、

又現實、斯く使用せられつゝあるものである。然るときは在外正貨は保證準備として繰り入れられ、通貨膨脹、物價暴騰の原因となり得べく、在外正貨を正貨準備中に繰り入るゝが爲めに非難攻擊せらるゝ同一の理由は茲にも亦存在する道理である。素より同一の在外正貨も之れが正貨準備として使用せらるゝときは其の金額は無制限にしてこれを準備として發行せらるゝ兌換銀行券も亦從て其の發行額に制限なしと雖も、保證準備とし之を基礎として兌換銀行券を發行せらるゝときは、我が國に於ては保證準備發行の總額は一億二千萬圓に限定せらるゝが故に、無制限に保證準備とし兌換券を發行すること能はざる相違がある。併しながら之とても保證準備に依る兌換銀行券の發行額には一應の制限あり無制限ならざるや勿論ながら、租稅を支拂ふときは制限以上、卽ち制限外發行を許され、殊に我が國に於ては制限外發行は無制限にして其の金額は大藏大臣の認下を得て租稅を支拂はゞ幾何にても自由に發行し得るのである。從て

在外正貨を保證準備に繰り入れ兌換銀行券を發行するも之を正貨準備として取扱ひ兌換銀行券を發行すると同じく、時には無制限たり得べく、通貨膨脹、物價暴騰の原因となり得るのである。

加ふるに之を我が國の實際に就て見るも、我が在外正貨の世界大戰爭中夥しく增加したりしは既に述べたるが如く、戰時中我が國際貿易、俄かに殷賑を極め、莫大なる輸出超過となり、其の支拂を外國に求めたるに原因する。卽ち我が輸出商は其の輸出品の代價を受取るが爲め、輸出品を外國に向つて荷造りをなし積み出すや、直ちに所謂荷爲替を振出し、之れを爲替銀行、殊に我が正金銀行に持參し、其の買入を求める。正金銀行は其の買入を拒むこと能はず、又之を買入れたるときは其の外國支店若くは取引銀行に送付し、其の手形支拂人より支拂を求め、其れだけの金額を受取らしめる。之れ外國に於て受取りたるもので、所謂在外正貨となるものである、然るに右の如き場合、我が正金銀行

は我が輸出增加し、從て其の輸出品を擔保に振出さるゝ荷爲替、卽ち擔保付手形を買入れざるべからざる立場にあるもので、之れが買入を拒むときは我が輸出貿易を阻止することゝなり、輸出奬勵の爲めの金融機關たる使命に反することゝなれば、荷爲替は無制限に之れが買入に應じなければならぬ。無制限に買入に應ずるが爲めには無制限の資力を有しなければならぬ。勿論其の資力を巧に運用し、買入るべき荷爲替の期限を調節して回轉に注意すれば有制限の資力を以てするも尙ほ能く無制限の買入に應ずることを得ざるにあらざれども、世界大戰爭中に於けるが如く、我が輸出俄かに夥しく增加し、擔保付爲替手形の振出さるるもの莫大なる金額に達し、殆んど凡て其の買入を正金銀行に要求せらるゝに於ては、如何に其の資力を巧に運用するも、資力に限りある正金銀行に於ては容易に之れが要求に應ずる譯には行かぬ。玆に於て我が正金銀行は所謂爲替資金の融通を他に求めなければならぬ。平素我が中央銀行たる日本銀行

は輸出貿易奬勵の爲め爲替資金として千五百萬圓を年二分の低利を以て正金銀行に融通して居る。正金銀行又多少の預金を有し、且つコールモネーを吸收し得る。併し之れだけでは不充分である。勢ひ更らに金融の中樞たる日本銀行に其の融通を仰がねばならぬ、現に戰時中、一時は正金銀行は日本銀行より五億圓に達する爲替資金の融通を求めつゝあつた。當時の國際貿易の大勢上、實に止むを得なかつたのである。

然るに正金銀行は五億圓の金額を唯々對人信用で、無擔保で日本銀行より借入るゝことは出來ぬ。而して日本銀行も亦兌換銀行券を增發して之に應ずるの外、五億圓の資金を調達すること能はず、兌換銀行券を增發するが爲めには何等の準備なくして之を發行することは出來ぬ。必ず兌換準備が必要である。之を以て正金銀行は右既に述べたる手續に依り發生したる在外正貨を日本銀行に引渡し、日本銀行は之を兌換準備として兌換銀行券を增發し、以て爲替資金の

必要に應じ、正金銀行に融通することゝする。之れ其のプロセスである。

斯の如く、世界大戰爭當時の事情の下に於ては我が輸出にして增加する時は自ら在外正貨增加し、在外正貨增加するときは自ら兌換銀行劵增加し、通貨膨脹、物價暴騰の原因となつたのである。其の在外正貨が正貨準備に繰り入れられるか、或は保證準備として使用せられたるかは敢て茲に重大なる關係を有して居らなかつた。然るに尙ほ一つ此處に大に考慮せらるべきことは我が國の通貨膨脹、物價暴騰は右の如く在外正貨と密接且つ重大なる關係あるがごとく思惟せらるゝも、其の關係必然なりや否やと云ふこと之である。在外正貨增加すれば必然に通貨を膨脹し、物價を暴騰せしむる乎、在外正貨の制度を非難し攻擊する論理上の根據は之を肯定するにあるが如きも、輸出激增し、國際貸借勘定の上に我が債權從て增大し、之を受取り在外正貨とすれば一應は通貨膨脹、物價暴騰の逕路を辿るべきも、其の對外債權、若くは其の在外正貨を他に國際

放資に充つるか、或は紙幣の發行を嚴重に制限すれば必ずしも通貨膨脹、物價暴騰を惹起さずとも濟むものであらう。又物價騰貴は金利政策の運用に依りて或る程度迄は之を緩和し得るものであらう。之れ制度其物の論議よりも寧ろ金融政策に重大なる關係あるものと思惟せらるゝのである。

七　物價騰貴と好景氣

其の孰れにするも、當時、事實上、我が國の通貨幷に信用は著しく膨脹し、物價は放慢的に天井知らずに暴騰したと稱して差支ない。需要の增加と通貨の膨脹とに伴ひ物價騰貴すれば商人にしてストックを有するもの工業家にして原料を買入れたるものは皆な其の値上りで利得し、利潤は增大する。其の利潤、而も豫期せざりし利潤は或は消費せらるれば其需要の對象物となるものは騰貴し、或は事業擴張の途に向けらるれば之れ又同じく需要の增加で物價の騰貴を

促し、終には賃銀、俸給の昇騰となる。之れ又需要增加の原因をなすもので物價、利潤、賃銀、俸給等は其の程度に大小の差こそあれ凡て皆な「クユムレチブ」に向上することゝなり、此處に財界を好景氣に導く。經濟界は俄かに樂觀的となり、上景氣となるのである。之れ國際經濟殊に國際貿易と我が財界との關係で、國際貿易の影響を受けて、戰時中の我が財界は殷賑の狀を呈したのである。財界の好況は輸出貿易進展の結果である。

八　貿易以外の受取勘定と國際貸借勘定

然るに國際貸借勘定を決定するものに財の輸出輸入に基くものゝ外、見えざる輸出卽ち Invisible Export と稱せらるゝものがある。貿易關係以外の受取勘定である。今其の重もなるものを擧ぐれば有價證劵の賣買、國際放資及其の利子、外國旅行者及滯在者の費用、移民の送金、運賃、保險料、銀行其他の手

數料、賠償金、竝に軍事費等是である。此等凡て皆な重要なる國際貸借關係で其の勘定を決定するものである。而して我が國は平素、此等の受取勘定比較的少なく、最近に於ては移民の送金運賃等を悉く加算して漸く一個年一億圓に達する程度で、三億乃至六億圓の輸入超過を示しつゝある際に於ては國際貸借勘定を相殺するに餘り有力なる項目なりと云ふことは出來ない。然るに世界大戰爭中に於ては各國共に軍隊竝に軍需品の輸送に忙がしく、加ふるに輸送上の恐ろしき危險あり、沈沒、損傷するもの又少なからず、甚しき船腹の缺乏を告げ世界的に運賃竝に船價、驚くべき騰貴をなし、我が國の如き相當程度の海運國にして而も直接、交戰の巷に出入せず、事實上、寧ろ中立國の地位を保ちたるものは俄かに著しき海運業の發達を經驗し、世界到る處の海上に雄飛し、船舶を處分すれば莫大なる利益を獲得し、運賃の收入又實に莫大なる金額に上つた。此の運賃の收入を主とし其他戰爭中、貿易關係以外の受取勘定の增加せるもの

あり、所謂見えざる輸出は其の計算困難にして、極めて正確なりとは云ふことは能はざるも一ヶ年五億乃至六億圓に達したることあり、既に述べたる實際上の國際貿易勘定に依る輸出超過其他と相合して國際貸借勘定上、我が國の受取り得る金額は益々增大することゝなつた。大正三年より同七年迄の間に於て此等我が國が外國より受取りし金額は其の總計全部を合はすれば三十八億圓乃至四十億圓に達したりとのことである。

此の事情は以上既に述べたる諸事情と相合して國際貸借勘定上、我が國の受取り得べき債權を增加し、其の受取は在外正貨を增加し、終に我が通貨信用の膨脹を促し、物價を騰貴せしめ、利潤を增大して最後に我が財界を好景氣に導きたるものである。

九　國際債權の增加と貨幣の對外價値

素より我が國際債權の增加は我が國より外國に支拂はざるべからざるもの少なく、外國より我が國に支拂はざるべからざるもの多き意なれば、現狀に於けるが如く、我が國より外國に支拂をなさゞるべからざる金額增大し、其の支拂に困難を感じ、我が圓價の對外價値を下落せしめつゝある場合と全く異なり、我が國より外國に對する支拂の少なきは我が國に於て外國に支拂をなすが爲め、に外國貨幣を要求するもの少なく、從て外國貨幣を高くとも買入るゝの必要なく、外國貨幣の安きは卽ち我が圓の對外價値の恰も現狀と反對に高きを示し、外國に於ては我が國に對する支拂多く、我が國に對する支拂多きは我が圓を要求する者多き意にて、圓の要求多ければ、多いだけ、それだけ圓は騰貴する譯である。換言すれば我が對外爲替は現狀の下落と正反對に寧ろ騰貴する、卽ち圓の對外價値は高まるべき趨勢を示すべき理である。圓の對外價値高ければ假りに我が國に於ては我が輸出品は毫も騰貴せずとも、外國貨幣に換算するとき

は圓の對外價値騰貴するだけ、それだけ騰貴するものなりと思惟され、それと全く正反對に反對の理由を以て外國より我が國に輸入する商品は外國に於ては毫も其の價格下落せずとも圓の對外價値騰貴するだけそれだけ、外國貨幣を以て云ひ現はさるゝ外國品は下落するものと思惟せらるる。安しと思惟せらるゝ外國品は買手多く、輸入增し、高くなれりと思惟せらるゝ我が商品に對しては外國に於て買手少なく、我が輸出は減少する理である。從て世界大戰爭中に於けるが如く、國際貸借勘定上、我が國に受取るべき國際債權增加するときは軈て爲替相場を引上げ、我が輸出は減少して輸入は增加し、結局輸入超過となるべき趨勢を現はすべき筈である。然るときは次第々々に既に述べたるが如き通貨竝に信用の膨脹、物價の暴騰を抑壓し、之に反抗して財界をして狂氣じみたる好況に導くが如きことなからしむる道理である。併しながら世界大戰爭當時に於ては、何分にも輸出貿易は非常なる進展をなし、輸出超過夥しく加ふるに見

えざる輸出又莫大なる金額に達したるが故に到底通貨信用の膨脹、物價の暴騰を抑制するには至らなかつた。其れだけの力は未だ發生するに至らなかつたのである。

十　財界の好景氣と事業熱

財界は非常なる勢を以て振興した。世の中は全くの上景氣である。物價は騰貴する、利潤は增加する。各種の財に對する需要は悉く增大し、生產到る處に興り、賃銀又迅速に騰貴に向つた。未だ嘗て經驗せざりし財界の好況である。先覺、識者の警戒の聲も蚊の鳴く音程にも聞えず注意せられなかつたのである。而して財界の好況も此の程度迄は未だ深く憂ふるに足らず、經濟自然の趨向なりと見るべきなれど、財界反動の萠芽は既に既に此處に胚胎した。卽ち凡ての財に對する需要の激增は物價をして益々騰貴せしめ、其の騰貴は容易に減退せ

ざるのみか、愈々甚しきに至るを以て、此の需要に應ずるが爲め、財の生産に從事することゝすれば忽ちにして莫大なる巨利を占め得ることゝなり、少なくとも其の計算となる。事業勃興の氣運、此處に其の端緒を發し、事業は到る處に計畫され、之を實行すべき事業會社は相次いで設立さるる。之れ事業熱である。既に熱であり Fever である、平熱以上で、少なくとも完全なる健康體ではなく、稍や輕症ながら病態である。されど、事業を計畫し、現實に財を生産すると云ふ以上、實業であつて虛業ではなく、唯、其の生産する財が果して資本と勞力を無益に若くは效用薄弱に徒費せらるゝことなきや否やが問題なのであるのみである。熱なるの故に少しく多きに失するの虞があるのである。

十一　財界の好景氣と投機熱

然るに此の事業熱、事業勃興熱、或は企業熱と稱しても同一ながら、漸次進

行することとならば、更らに投機熱となるのである。投機熱は企業熱よりも熱の度合、更らに高く、從てそれだけより多く病的である。即ち投機熱とは投機が目的で、財の生産を目的とするものではなく、一層簡單に云はゞ株券の製造をなし、之に依りて一獲萬金の巨利を占めんとするが目的である。換言すれば事業を計畫し、新會社を創立するも、之に依りて財の生産をなすを主眼とするのではない。新會社を創立すれば株式會社たる以上、株券が出來る。此の株券は財界上景氣、金融緩慢、人皆な樂觀的前途を夢み、巨利を博せんとすることのみに心を奪はれ、既存會社の株券は失敗せざる限り殆ど悉く拂込以上の時價を保ち尙ほ昇騰せんとするの傾向を示しつゝある際に於ては間もなく未だ申込金を徵收せず、第一回拂込をなさゞるに既に權利株として價格を生じ、第一回拂込をなさしむるときは、直ちに拂込以上の價格を示し、斯る株券を有する者は容易に殆んど何等の苦勞もなしに之を賣り飛ばして巨利を獲得することが出

來る。之を以て新會社を創立し、之を經營し、之に依りて生産に從事せんとするの意圖を懷かず、唯々株券を濫造して之を賣り飛ばし、直ちに第二、第三の會社計畫、株券濫造に耽るものを生ずるに至る。是れ投機熱流行の時代で此の時代は轉て財界に反動を惹起し、甚しき弊害を釀すに至るのである。

十二　財界の好景氣と泡沫會社の濫設

投機熱流行の時代、更らに進まば泡沫時代となる。泡沫とは Bubble と云ふ意味で、英國經濟恐慌史に於ても、南洋泡沫 South Sea Bubble とて有名なる恐慌がある。南洋と直譯して云へど、實は當時其の事情明瞭ならざりし南米を利用し、玆に諸種の事業を計畫し、悉く失敗に終りて經濟界に大動亂を惹起したのである。寔に泡沫卽ちアワは直ちに消ゆるが如く泡沫時代に設立せらるゝ新會社は殆んど全部、直ちに消滅するか、或は吹けば飛ぶが如き基礎の薄弱なる泡

沫會社である。失敗は當然である。蓋し泡沫時代には事業其物を經營せんとする意思は毛頭もなく、唯會社を創立し、其の株券を賣り飛ばして逃げ去らんとするものなれば跡は野となれ山となれ主義で、其の事業が確實に成長すべき筈はないからである。世界大戰爭當時、我が國にも斯の如き時期があつた。今尙ほ當時の跡仕末の付かざるものあり、此の種の株券の拂込の紛擾を釀しつゝあるもの少なくはない。此等の一掃せられざる限り、整理の行はれざる以上、資金は徒らに固定し、財界景氣回復の大なる障害となる。人は今に於て大に後悔しつゝあるのであるが、併しながら追ひ付かぬ。

然らば何が故に斯の如き無謀なる事業計畫せられ、投機熱流行し泡沫時代を出現するのであるか。危險にして無謀なる事業は人は容易に之に贊同せざる筈である。何人も自ら進んで直ちに失敗に陷るが如き事業に出資せざるべき道理である。損失に歸するが如き株券は之を買入れざるべきである。人の怪しむも

一應然るべき理由がある。然るにも拘らず、人は後悔しても尙ほ一時投機熱流行し、泡沫時代現出して、直ちに失敗に陷るが如き會社事業の計畫され、其の設立を見るに至るは之れ其の當時に於ける經濟事情の然らしむる所で、一層簡單に云はば當時の經濟心理の所產である。泡沫會社と云ひ危險にして直ちに失敗に陷るものなりと云ふはそは後に至りて知り得ることである。其の當時は人は多く其の失敗に陷るべき事業も有望なりと信じ、又其の株券は直ちに騰貴し利益を獲得し得べしと確信して買入るゝのである。損失を蒙るべしと信じつゝ買入るゝものは無き筈である。且つ又物價騰貴しつゝある時期に於ては事業を計畫し、目錄書を造るに際し、最も嚴格に其の計算を行ふも尙ほ且つ夥しき利益を生ずる勘定となるは極めて普通のことである。現に世界大戰爭當時、吾人の知れる一例に就て見るも、或る事業を計畫せるものあり、之を實現せしめんと目論見書を起草せしめしに株主に對する利益配當を十割と計算したる者があ

つた。十割とは餘りに亂暴で、寧ろ虛僞に見ゆ、三割程度に止むるを可とすと忠告したるに、如何に嚴重に計算するも十割の利益を配當し得るのが事實である。此の事實を無視して三割配當となすは之れ全く甚しき虛僞で、虛僞を人に强ゆるは不都合なりとのことであつた。實に當時は虛僞に見えても虛僞ではなかつた。併しながら其の虛僞ならざることが踵らさずして虛僞となるは何人が之を知り得よう。甚しき物價の騰貴の繼續する間は如何なる事業を計畫するも凡て皆な法外なる利益を獲得し得る計算となるのである。三割乃至四割は寧ろ普通である。十割必ずしも稀なりとしないのである。

經濟界は樂觀氣分漂ひ、全く浮調子である。如何なる事業を計畫するも直ちに相當の贊同者を求むることが出來る。英國金融學の權威者たる Bajehot は其の有名なる著書 "Lombard street" に於て極めて興味ある挿話を揭げ、泡沫時代に於て計畫せらるゝ會社の種類を述べて居る。卽ち十九世紀末に於ける英國の

恐慌に先立つ泡沫時代に於ては、曰く海底沈沒物引上會社、永久に運轉して止らざる車製造會社、曰く水銀を固定金屬とする會社等曰く曰くの會社創立が計畫された。而して其の內、最も奇拔なりと云ふべきは或る一定の時期、卽ち第一回拂込終了の日を以て其の目的を發表する會社之である。目的を明示せざる會社、如何にして其の計畫を立て、其の計算の確否を知り、其の成否を判斷し得よう。普通の場合ならば極めて不眞面目である。何人が斯る會社の創立に贊同するものがあらう。株式應募者は無き筈である。然るに時は泡沫時代である。環境は樂觀氣分で充滿して居る。且つや株式に應募する者は永く株主となり、事業を健實に發展せしめんとする意思を有する者は少ない、否な殆んど無い。多少にても利が乘れば直ちに賣り飛ばして一儲けせんとするものゝみである。目的を明示せざる會社とは必ずや非常に有望なる事業たるに相違ない。必ずや大なる利益を獲得し得るに確定して居る、と、斯の如き樂觀的解釋と好奇心と

に驅られて此の目的を明示せざる會社は異常なる人氣を呼び、之れが株式募集に應ずる者相次ぎ、間もなく滿株となつた。次は株金の拂込である、而して會社目的の發表である。株金拂込の日は來た。拂込は完了せられた。會社發起人の目的は既に玆に達成せられたのである。卽ち發起人は其の拂込まれたる資金を着服、失敬して何れにか姿を隱した。是れが其の會社創立の目的發表であつたのである。一種の電氣會社ならぬ逐電株式會社であつたのである。

英國人は由來 Logical Frenchman, Systematic German に對して Practical Englishman と呼ばれ、實際的で、事物の判斷に對しては極めて冷靜なる國民なりと信ぜらるゝものである。其の英國人も恐慌に先立つ泡沫時代に於ては特有の冷靜なる判斷力を失ひ泡沫會社を濫設せしむる。何れの國に於ても斯る時代に於ては基礎薄弱なる無數の會社が設立せらるゝのである。經濟心理の所產なりと云ふ所以で、同時に此處に恐るべき財界反動の萌芽が現はるゝのである。

十三　財界の好景氣と其の反動

通貨膨脹、物價騰貴、財界好況に伴ふ經濟現象は必然に事業熱、投機熱の勃興となり泡沫時代を現出するに至るのである。之を抑壓するは素より絶對に不可能にあらずとするも非常なる大決心を以て緊縮方針を死守するにあらざれば其の目的を達することは出來ぬ。Inflation は結局有害なるも尙ほ爽快なるものである。Inflationist の議論竝に政策は俗受がする。大聲は俚耳に入り難い。併しながら其の結果は反動である。繁榮は永久に繼續し得るものではない。殊に泡沫時代に於て眞面目に事業其物を經營せんとしたるにあらずして唯々株券を製造して之を賣り飛ばし一儲けせんとしたるが如き新設會社の健實に發展すべき理由がない。失敗すべきは寧ろ當然である。然るに此の失敗や其の數極めて多數に上るもので、云はゞ普偏である。一般的なる失敗は之れ恐慌で、財界

沸騰の跡には必ずや恐慌が來る。榮枯盛衰、祇園精舍の鐘の音ならぬ諸行無常の天理でながあらう。

世界大戰爭の好影響を受けたる我が財界は一時は春風駘蕩の觀があつた。秋風落寞の日は至らぬであらうか。財界は好景氣である。種々なる泡沫會社も少なからず設立せられた。併しながら世界大戰爭の繼續する限り、我が輸出は跡より跡と發展し、我が國際債權は增大するの一方である。通貨はいやが上にも膨脹し、泡沫會社の拂込にも最初は左まで困難を感じなかつた。秋、蕭條の感は未だ起らなかつたのである。

然るに大正八年十一月、突如として世界大戰爭は休戰となつた。其の結末の第一場面を展開したのである。世界大戰爭に原因して異常なる進步發達を示したる我が國際貿易は其の原因の消滅と共に此處に大變化を經驗しなければならず、我が國際貿易にして一大變化を見るに於ては國際貿易に起因して非常なる

繁榮を告げたる我が財界は其の反動を免るゝことは出來ぬ。財界動搖の第一歩を歩み出したのである。世界大戰爭休戰の報、一度傳るや、我が財界は少なからず動搖の色を示し、有價證券市場は一時混亂し、下落に次ぐに下落を以てした。而して當時、若し休戰と共に我が財界動搖し、其の反動を惹起したりしならば、一時は財界に相當激烈なる恐慌を見たりしならんも其の程度は大正九年に於けるが如く甚だしきに至らず、次いで現はれたる不景氣も比較的に稍や輕微に過ぎ去ることを得て、財界は夙に回復したでもあらう。

併しながら休戰と共に、若くは休戰と同時に起りたる我が財界の反動は餘りに輕微に過ぎ、樂觀的氣分に對し反省を促すに足らなかつた。それも其の筈で世界大戰爭休戰となればとて軍需品の需要は此處に減退するでもあらうが、戰時中に起りたる交戰諸國の產業の Dislocation は其の復舊 Rehabilitation に相當の歲月を要する。出征軍人ですら戰地より歸還し、除隊せられて再び產業に

從事するには半歲若くは一ヶ年を要するであらう。況んや戰時中動員せられたる製造工場に於てをやである。休戰の報に一度び愕きたる我が財界は直ちに大なる反動を見るべしと思ひきや、案外、其の影響の輕微なるに二度び驚いたのである。此の第二次の驚きは軈て安心となつた。

我が財界は戰爭の好影響に依り國際貿易進展して上景氣となつたのである。戰爭の終了と共に其の反動を惹起し、財界動搖して不景氣となるは止むを得ざる勢であらう。休戰の報と共に財界動搖を覺悟したるものゝ其の實、其の實際的影響の現はるゝは半歲若くは一年の後である。然るに其の影響の直ちに現はれざるや、人は皆な戰爭の終了敢て驚くに足らず、又恐るべきにあらずと誤解した。戰爭終結するも我が財界には好景氣尙ほ引き續く。之れ我が經濟力の發展である、實勢力の增大である、須らく尙ほ此の上にも事業の發展を圖りて我が經濟的進步向上をなすべしと信じた。財界は好況尙ほ繼續し、此の信念を得

て事業は益々膨脹した。之を休戰前と後とに比較すれば、休戰前の不安は休戰後に於て一掃され、更らに大なる勢を以て財界の發展を促し、終に眞正なる泡沫時代は出現し、騎虎の勢、其の止まる處を知らず、警戒氣分は全然取り除かれて識者先覺の注意も之に耳を籍すを欲しなかつた。

斯の如き趨勢は何時か行詰らざるを得ない。泡沫時代に計畫され設立せられたる諸會社の數や甚だ夥しく、漸次に其の拂込を要求せらるゝに至つた。其の金額や又莫大なるものである。而も好景氣引續き、輸出貿易相變らず繁榮を告げ、國際貸借、我に利なる限りは資金相次いで增加し、其の拂込、其他資金の需要にも應じ得ることは易々たるものであらう。然るに戰爭終了の影響は之れ又何時か必ず現はれざるを得ないのである。戰爭の好影響に依りて我が輸出貿易は異常なる進展を見たのである。其の戰爭の終了が輸出貿易を其の儘にして何等の影響を及ぼさゞる理由は思惟せられない。果然、休戰は平和條約の締結

となり、半歲、一年を經過せんとする內に交戰諸國の出征軍人は歸還して再び生產業に從事し、工場動員解除され Rehabilitation 行はれて、戰時中、既に述べたる中立國に對して向けられたる需要は漸次減退し、我が國際貿易は之れ又既に揭げたる計數に依りても窺ひ知り得るが如く、漸次に輸出超過は輸入超過と變じ、輸入超過は益々其の金額を增加するに至つた。戰爭終了の影響の現れである。

一方には國內に於ける資金の需要愈々增加し、他方には輸入超過の增加に依りて國際貸借、我に不利となりて資金は增加せざるのみか、却て對外支拂の爲め減少することゝなり、我が財界の窮迫は愈々廻り來つた。支拂不能であり取り付けであり、更らに之を逆に利用する投機である。瓦落は免るることを得ない。之れ大正九年春に於ける我が經濟大恐慌である。而して之も亦國際經濟的關係に依るの外說明は困難であらう。

十四　輸入超過と財界の不景氣

夫れ斯の如く、我が財界の大正三年以來の好景氣も國際貿易關係に起因すれば、大正九年の大恐慌も亦國際貿易關係に原因して居る。我が財界と國際貿易殊に輸出貿易とは極めて密接不離の關係を有すること、之に依りて明瞭であらう。

大正九年春の大恐慌以來、我が財界は甚だしき不景氣である。資金は固定し整理を必要とするも其の歩みや極めて遲々である。銀行の貸出金は遙かに預金を超過して居る。之れでは容易に財界は回復せざるべきであるが、國際貿易關係は引續き輸入超過である。輸入超過夥しき内は我が財界は壓迫を免るゝことが出來ぬ。而も不景氣の内に漸次遲々ながらにも整理の緒に就かんとせしとき大正十二年、秋九月、關東に大震火災の大不幸に遭遇した。天災である、致し

方もなく止むを得ざれど、それが結果は夥しき物資の需要と不足である。之を急速に供給するが爲めには物質を外國に仰ぐの外はない。輸入に次ぐに輸入、再び莫大なる輸入超過で、既に前に掲げたる計數は之を明示して居る。大恐慌後の整理、多少にても進みつゝありし際、此の不幸に逢ふ、景氣回復はそれだけ遲延せしめられたのである。

十五　財界景氣回復と輸出振興

我が財界の景氣を回復するが爲めには以上述べたる理由に依り先づ輸入超過の壓迫を去り、漸次輸出超過に向はしむるか、少なくとも輸入超過の量を遞減せしめなければならない。輸出奬勵、輸出振興の必要ある所以である。然るに輸入を抑制し、輸出を增進せしむるが爲めには種々なる手段方法がある中にも物價高き處へは外國品の來りて内國品と競爭すること容易なるが故に輸入は增

加し、物價の高き國の商品は外國に輸出して其の販路を擴張すること甚だ困難なるが故に、先づ取敢へず、物價を低下せしめなければならぬ。殊に世界大戰爭中、徒らに放漫政策を採用し、物價を騰貴するが儘に放任して終に甚しく暴騰せしめ、加ふるに少なからず、粗製濫造品を輸出して信用を失墜したること甚しきものあれば、其の信用を回復するが爲めにも良品廉賣は甚だ必要なる方針であるのである。

物價問題、茲に於て財界回復の中心問題となるのである。然るに物價を人爲的に引下ぐることは其だ難澁なることで唯さへ世界戰後、好景氣の反動を受けて孰れにするも物價は下落しつゝある際、之を人爲的に更らに低落せしむることは却つて我が經濟界を一層萎靡せしむるの虞がある。不景氣は物價下落し、下落の爲めに商人にしてストックを有するもの、製造工業家にして粗製原料を買入れたるものは其の買入値段よりも安く賣り放たざるべからざるが故に此處

に損失を蒙り、一般に需要減退し、依て以て惹起さるゝ所の經濟現象である。此の不景氣の其の上に尙ほ物價を引下げんとするは言ふべくして行ひ難い。併しながら人爲的に急激に物價を引下ぐること之れ極めて困難にして有害なりとは云へ、然ればとて物價の自然に低落すべき趨勢にあるものを殊更らに一部當業者の運動に動かされ、物價の低落を阻止するは一時は物價低落に伴ふ苦痛を免かれしむるも、之れ又却つて財界の回復を大に遲延せしむるもので、事に害ありて益あるを知らない。大正九年春、財界に大恐慌起り、取付盛んに行はるるや、信用俄かに收縮し、資金の融通を求むるの途なく、財界は大混亂に陷つた。若し當時、之を其の自然に放任し置かんか、他に資金の融通を求むることは能はずして而も嚴重に債務の復行を迫まらるゝものは勢ひ其の手持品を處分して之に應ぜざるを得ざることゝなり手持品の處分は勿論其の價格を下落せしむべく、殊に恐慌の際凡ての人は資金を欲し、商品を買入れんとするもの少なか

るべければ、止むを得ず投げ賣りをなすものも出づべく、物價は勢ひ下落せざるを得ない。此の物價の下落は軈て財界回復の原因である。卽ち國際經濟的には物價下落して輸入は減少して輸出は增加するに向ふべく、國民經濟的には恐慌に伴ふ需要の減退、物價の下落は一般國民の生活費を低下せしめ、實質上の賃銀を下落せしむることゝなるべく、賃銀の低落は生產費低下の重要原因となるべく、又生活費の減少は貯蓄を容易ならしめ、貯蓄せられたる零碎の資金は集團となりて資本を形成し、軈ては金利を低落せしめ、之れ又生產費を遞減すると共に事業振興の因をなし、以て財界景氣挽回の端緒を開くことゝなるのである。之れ自然の道程である。

然るに大正九年春、戰後反動の大恐慌起るや、時の我が當局は盛んに救濟策を採用した。救濟策とは資金に困難を感じつゝあるものを救濟するの意で、資金の融通を與へるのである。斯る場合に資金を融通す、其の結果は資金に困難

を感じつゝある者の苦痛を最も少なからしめたるもので、資金の融通を受くる者は最早、損失を忍びて手持品を處分し、若くは投賣りすることを見合せる。物價は存外下落しない。而して救濟の爲めに融通せらるゝ資金は斯る場合、中央銀行たる日本銀行より之を供給するの外はなけれど、日本銀行は素より無限の融通力を有して居るものではなく、兌換銀行券を增發して之に應ずる。兌換銀行券の增發、之れ通貨の膨脹である。素より經濟恐慌の際に於ては一方に於て信用大に且つ俄かに收縮するが故に他方に於て多少兌換銀行券の增發あるも直ちに積極的に物價を騰貴せしむるが如きこと之なしとするも、少なくとも消極的には物質の低落を阻止する作用がある。

救濟は卽ち物價の低落を阻止する所以で、物價低落の阻止は其の當座こそ一時苦痛を輕減するも終局、景氣の挽回を遲延せしむるものである。惟ふに之も其の當時に於ては救濟せざれば經濟的 Organization を破壞し、我が經濟界を

根本的に潰崩せしむるの虞ありとしたのでもあらう。但し之等が重要なる原因の一となりて我が財界は今尙ほ健實なる回復を見るに至つて居ない。相當長き期限である。而して大恐慌の當時ならば、物價暴落し、多大なる損失を蒙り、時には破產倒產する者あるも我れ人共に終に免るべからざる運命となし、觀念すべきも、其の後、經濟恐慌の日を去る遠きに從ひ、人爲的に濫りに物價引下策を實行するが如きは極めて至難なることゝなる。

財界好況、我が國際貸借大に我が國に利となり、正貨夥しく增加しつゝあり し際に於ては、次いで來るべき經濟界の反動を憂ひ、識者の大に國際放資を主張する者あり、筆者の如きも極めて熱心なる其の論者の一人なりしが、我が國にも頑迷なる重金主義者甚だ少なからず、終に國際放資論の實行を見ず、間もなく我が正貨は莫大なる輸入超過に對する支拂の爲め漸次に減少し、そが減少は軈て我が金融を壓迫し、我が財界をして益々不景氣ならしめた。

之を以て殘る所は勤險を奬勵するの外はない。歷代の當局、凡て勤險を力說し、之を以て我が財界景氣挽回策の唯一の方法なりとした。然れど、勤險素より可なれども其の效果は比較的薄弱であり、其の影響は容易に現はれない。我が財界景氣回復の遲々たる理由の一である。然るに年々の巨額に達する輸入超過は戰爭中と全然反對に我が國際貸借勘定を大に我が國に不利となし、我が國際債務、月を重ぬるに應じて益々夥しく增加し、我が對外支拂は甚しく增大して、終には外債を募集して之に應ぜざるを得ざるに至りしも、對外支拂に基く正貨の減少は我が兌換銀行券發行に對する正貨準備を遞減せしめ、或は恐る兌換準備の基礎を動搖せしむるに至るなきやと云ふの狀態となつた。之を以て我が國は大正六年實行したりし金の輸出禁止を解くこと能はず、之れも亦通貨の收縮竝に物價の下落を阻止した。而して此の輸入超過竝に正貨輸出の禁止は我が圓の對外價値、換言すれば爲替相場を下落せしむることゝなり、一時は我が

百圓の對外價値は平準相場に於て米貨四十九弗八分の七なるのもが、三十七弗に暴落するに至つた。圓の暴落、卽ち我が爲替相場の下落は我が國が海外より輸入する凡ての財は外國に於て從前通りの價格にて我が國に輸出するも其の價格は外國貿易にて表示せらるゝが故に、下落せる我が貨幣、圓を以て支拂ふときは騰貴したると同一の結果となり、之に反して我が國が外國に輸出する商品は凡て我が貨幣、圓にて表示され、其の圓は外國貨幣に對して下落したることゝなりたるものなるが故に縱令、我が國は其の輸出する商品の價格を少しも引下ぐることなきも尙ほ外國の購買者は我が圓を外國貨幣に換算して我が輸出品の價格大に下落したるものなりと思惟するに至る。而して價格下落し、低廉となるときは普通ならば其の需要は增大し、我が輸出は增加する。之に反して價格騰貴するときは如何にせん、需要を抑壓するの傾向となり、此の場合、輸入品の騰貴は其の輸入を減少せしむるの趨勢となるのが自然である。然るに我が輸

出は慥かに此の原理に基きて增進の傾向を示した。米國に對する生絲、支那、南洋、及印度方面に對する我が綿絲布の輸出は增加し我が國際貿易の大勢を大に我が國に利とし順とし、素より輸入超過を一朝にして輸出超過となすこと不可能なるも少なくとも輸入超過を減少せしめた。我が財界の前途を稍々明かるくし、一種の光明を與へたる感がある。此の儘にして進まば、我が財界も此の國際金融殊に國際貿易關係によりて大に景氣を回復せしむる筈である。

然るに輸出は右の理由に依り增進するも、輸入はと云はゞ、單純なる理論の上に於ては之れ又右述べたるが如く減少すべきなるも、我が國の輸入品は棉花羊毛鐵等所謂、粗成品、原料品が多い。此等は凡て必須品で殊に一ヶ年九億圓に達する輸入額を示す棉花の如きは我が工業中最も重要なる地位を占むる纖維工業の其の又纖維工業中の最も主要なる紡績業の原料品で、棉花を輸入せざれば紡績業を經營すること能はず、國民大多數の必需品たる衣服の木棉を供給す

ること能はず、且つや支那、南洋、印度に輸出することが出來ぬ。是非共棉花は之を我國に其の價格騰貴するも尙ほ之を輸入せざるべからざるもので、原料品の乏しき我が國は此の種の原料品の輸入を減少せしむる譯には行かぬ。高くとも買入れねばならず、高く買入るゝに於ては原料品の騰貴で、其の加工品たる棉絲布は其の價格騰貴することゝなり、衣服の材料を騰貴せしめ、軈ては物價をそれだけ騰貴せしむることゝなる。物價を騰貴せしむるか、少なくとも物價の下落を困難ならしめ、それだけ、之れ亦既に詳述したる理由に依り、我が財界景氣の回復を遲延せしめらるる。我が財界が容易に景氣挽回せざるも此等の理由に基くのである。之れ我が財界の現勢である。

然り、之れ我が財界の現狀で、國際經濟殊に國際貿易と我が財界との關係であり、國際經濟と我が財界景氣不景氣の原理である。

第二　國際貿易と金融政策

一　國際貿易振興に關する經濟上の諸政策

我が國の財界は國際經濟と極めて緊密なる關係を有し、國際貿易の消長は直ちに我が金融を左右し、我が財界を或は上景氣たらしめ、或は不景氣たらしむること、既に繰り返し繰り返し說明したる所で、世界戰爭中及び其の直後の我が財界の好況、並に最近に於ける不況は充分之を證明するに餘りありと信ぜらる。之を以て我が財界の不景氣を挽回して之を振興し、上景氣たらしめ、國民生活を安定せしむるが爲めには孰れにするも先づ國際貿易を殷盛に導き、殊に輸出貿易を大に奬勵し、之を發展せしむるを以て最も捷徑なりとする。之れ輸出貿易振興の聲甚だ高き所以である。輸出は大に增進せしめなければならず、之には何人も異議はなき筈であると考へらるる。

然らば我が輸出貿易は如何にして振興すべきや。之には種々なる手段方法あり、今日に至る迄、之が爲めに主張せられたる經濟政策にも種々雜多のものがあり、中には寧ろ稍や滑稽に類するものもある。併しながら其の根本は優良品を廉價に供給して國際市場に競爭し、之に依りて以て優勝の地位を獲得するより外に良法はない。世界大戰爭中我が國は夥しく粗製濫造品を輸出し、而も我が國の物價賃銀共に暴騰し其の價格甚だ不廉なりしを以て我が輸出は激減し、輸入は激增して其の結果輸入超過となつたのである。今や其の反對の途を行くの外はない。而して優良品を廉價に供給するが爲めには何は兎もあれ我が物價の騰貴を抑へ之を引下ぐるの方法を講じなければならぬ。物價を引下ぐるが爲めには生產費の低減を圖るを要し、生產費の低減を圖るが爲めには主として能率增進の方法を按出し、事業の合同、整理をなし、家內工業の改善と統一、動力及燃料の低廉、運搬の改善と運賃の低減、各種租稅及諸掛りの輕減と其負擔

の公平等を考慮して之れが實現に努力しなければならぬ。且つや我が輸出貿易を振興するが爲めには優良品を低廉に供給するを要するや勿論ながら、單に良品廉價主義のみを以て能率足れりとなすべきではない。優良品を廉價に供給する其の上に現今の如き國際經濟的競爭激烈なる時代に於ては其の輸出品の販路擴張を圖り、之れが爲めに種々なる便宜を與へ、施設を試みるの必要がある。例へば海外に於ける新販路擴張の爲め、海外市場の調査、視察、貿易情報機關の整備、貿易情報の公布、共同販賣機關の設置、巡回博覽會、移動見本陳列館の開催、新航路の開設、竝に我が國の如き實業界に今尙ほ獨立の氣慨少なく、何事も政府に依賴主義の行はるゝ處にありては貿易關係の行政事務を統一し、其の助長、促進と指導とを行ふが如き是である。

併しながら以上其の項目のみを列擧したる種々なる施設は我が物價を引下げ優良品を低廉なる價格を以て輸出するを可能ならしめ、同時に其の輸出の便宜

を圖るに夫れ夫れ有效なる方法にて、何れも我が輸出貿易を振興するに與りて力あるべきや敢て詳論する迄もなけれど、尙ほ對外貿易を進展せしむるが爲めには其の之に必要なる資金を圓滑に且つ潤澤に融通せしむるを要するや、之れ亦敢て論ずるを俟たざる所であらう。之れ貿易金融の問題である。而して本書は主として國際貿易と金融を論述せんとするを目的とするものなれば、輸出貿易振興策としての右述ぶる種々なる方策に就きては此處に之を論述するを見合はせ、以下、貿易金融に關し、筆を進めるであらう。

二　戰前獨逸の經濟的海外發展と國際貿易金融政策

惟ふに輸出貿易を振興し、其の增進を圖るが爲めには貿易金融の疏通に關し常に細心の注意を拂はざるべからざるもので、貿易金融上の施設の如何は輸出貿易の盛衰消長に極めて重要なる關係を有するものである。世界大戰爭は獨逸

と英國が其の經濟上の利害を異にし、地球上に於ける其の經濟的覇權を競ひ、互に優勝なる地歩を獲得せんとしたる爭奪戰なりしと見ることを得べく、其の實質竝に眞原因は經濟上にあり、而も英國が獨逸を敵とし、獨逸が英國を敵としたるは獨逸は性急にも一日も早く國際經濟上に於て嚴然、威力を示せる英國を倒して取つて以て之に代らんとし、英國は駸々として發達し、常に其の壘を摩せんとする經濟的獨逸の脅威を感じ、未だ其の成熟せざるに先んじて之を押し潰さんとしたるに原因すと云ふことが出來る。寔や獨逸の經濟的發展進歩は實に著しきもので、戰前、其の國際經濟的地歩は牢乎として拔くべからざるものとなり、植民帝國としても、國際貿易國としても、英國は漸次に獨逸に壓迫せらるゝを感ぜざるを得ざるに至つたのである。殊に國際貿易に關しては英國は世界の商業國として太陽の沒することなき植民地を有し、ユニオンヂャックの旗は世界到る處の海上に飜り、英國人は先天的商業國民としての天才を有す

と自負したりしものなりしに、何時とはなしに其の販路は獨逸人に奪はれ、獨逸商品の侵入を防ぐこと能はざるに至つた。之れ獨逸の恐るべき發展である。之れ恐らくは獨逸人の敎育にも依らう。其の學問、技藝の進歩にも依らう。また獨逸人の先天的組織的なる研究心と、驚くべき隱忍力を有する忍耐心にも依らう。併しながら、獨逸の世界的商業が著しき進展をなし、其の國際貿易の發達〻共に國際經濟上に有力なる地位を占むるに至りし所以のものは獨逸の貿易金融の施設其の宜しきを得たるに原因すること、極めて大なるを承認せざるを得ないであらう。

現に戰前、獨逸は其の世界的商業の發展を圖るが爲め、或は海外銀行、或は植民地銀行の創設を奬勵し、此等の金融機關を通じて盛んに貿易金融の疏通を圖り、殊に其の輸出貿易を援助するが爲めに稍や長期の信用を與ふることゝした。卽ち外國貿易に與ふる信用は其の期限、普通三箇月を標準とするものなる

が、獨逸は六箇月或は其れ以上の期限の信用を與ふるを敢て辭しなかつた。茲に於て例へば英國商人若くは其他の商人より英國品若くは其他の商品を買入れたる者は、其の信用の期限、普通三箇月なるが故に三箇月以內には縱令其の買入れたる商品の賣行如何に拘らず、委托販賣にあらざる以上、必ず其の代金の支拂を要し、又其の支拂を迫らるゝも、獨逸商人より獨逸品を輸入し買入れたる者は其の期限、例へば六ヶ月以上の比較的長期なるが故に其の代金を支拂ふ迄には其の買入れたる商品は大抵賣拂ふことを得べく、見込違ひをなさゞる以上、普通の場合には、其の賣上金を以て其の代金の支拂に充つることが出來る。從て獨逸商人より獨逸商品を買入るゝものは單に信用に依り、其の取引を行ふことを得べく、自己の資本は比較的小にして其の經營に任じ大なる取引をなし得るを以て、資本の回轉は遙かに有利となり、外國の商人は獨逸商人より獨逸商品を輸入することを欲するに至つた。加ふるに斯る場合、右述ぶるが如く、

獨逸との取引は有利なるが故に縱令獨逸より買入るゝ商品にして其の價格、英國品若くは其他の國產品より比較的に稍や高くとも、其の不利益は却て他方の利益を以て相補償せらるゝを以て獨逸の商品は尙ほ相當に其の輸出を增進することを得るのである。之れ獨逸の輸出奬勵方法で、大に其の世界的商業の進展を圖り、國際貿易の上では獨逸は遙かに英國に比し後進國なるにも拘らず、終に英國をして常に其の脅威を感ぜしむるに至つた所以である。而して此の輸出貿易奬勵、振興の方法や、全く貿易金融上の施設たるや云ふ迄もない。

其他獨逸は國內に於ては其の金融機關たる銀行は英國式預金銀行と異なり、所謂兼營主義の經營方針を執り、工業に對する金融も嚴重なる監督と精密なる調査の下に敢て之を辭せず、否な敢て之を辭せざるのみか、進みて工業金融の衝に當り、以て其の殖產興業の進步、發達を期し、海外殊に南米等に於ては獨逸の銀行は一の建築物を有したる場合、其の階下は街路に面して銀行業を營み

其の階上は其の地の經濟事情の調査研究をなすべき調査局に充てられありしとのことである。用意周到なる其の一端を窺ふべきである。獨逸は今や世界大戰爭の戰敗國となり、戰爭の創痍容易に癒えず、再び世界的商業國として國際經濟上雄飛するは何時のことなるや、素より不可能ならざるや云ふ迄もなけれど、前途甚だ困難なりと惟はなければならぬ。さるにても、縱令戰敗國となりたればとて、そが貿易金融の上に與へたる敎訓は今尙ほ其の光輝を失はざるべしと信ずる。少なくとも他山の石である。

三　國際貿易の奬勵と米國の國際貿易金融政策

次いで、世界大戰爭終了後に於ては、各國孰れも再び戰爭前の狀勢に鑑み、之に溯りて盛んに國際經濟的發展に留意し、輸出貿易振興、奬勵に少なからざる努力を拂ふことゝなつた。而して輸出貿易を奬勵し之を增進せしむるが爲め

には之れ又再び戰前の狀態に立ち戻り、貿易金融の施設を試み、主として戰前獨逸に於て行はれたる貿易金融の顰に倣ふことを忘れなかつた。今其の概要を能ふ限り簡單に略述すれば、種々なる意味に於て我國の競爭國たる米國は、先づ一九一八年戰時金融會社の創立を始めとしてエッヂ法を制定し、此の法規の下に於て第一、聯邦國際金融會社、第二、國際貿易金融會社、第三、國際手形引受銀行、第四、聯邦國際會社、及び第五米國物產輸出入會社等を設立した。米國に於ける銀行制度は英國に於けるそれと均しく、銀行とは預金銀行を指し、預金業務を本體とせざる金融機關は之を銀行と稱せざるが故に右述べたる金融の機關は凡て之を會社と稱し、銀行と云はざるも、凡て皆な貿易金融の機關たること勿論である。此等の貿易金融機關は各々一千萬弗乃至五億弗の資本金を有し、其の中には債券發行の特權を有するものもあり、手形の引受を始めとして、成る可く期限を比較的長く、利子歩合を低利として貿易資金を融通し時に

は外國製造工場又は之れと同樣なる副抵當を擔保として米國生產品を購入せんとする外國人に現金貸付をなすが如き、普通の手續を以ては銀行より直接適當なる條件を以て資金を借入るゝこと能はざる場合若くは相手方に資金を融通するの便宜を與へんとするにある。其の效果、素より豫期の如くなること能はざりしも尙ほ米國對外貿易を助長したること僅小ならざるものがある。殊に外國製造工場又は之れと同樣なる副抵當を擔保として外國人に現金貸付を行ふの方法は輸出貿易を奬勵するに與つて力あるもので、今若し此處に外國の製造業者が米國より原料品或は其の他の材料を購入せんとする場合には米國の金融會社は外國製造業者の工場を擔保とし、之に對して債券を發行し、斯くして得たる資金を以て米國輸出業者に對して支拂をする。之れ外國の債券を米國內に於て直接發行するも米國に於ては信用十分ならず、之を買入るゝもの少なきが故に聯邦準備局を通して合衆國政府の監督の下にある金融會社に擔保を押へしめ、

債券を發行せしむれば其の應募者を得ること比較的容易となり、外國の製造業者は米國に於て買入れたる米國生産品の支拂をなすことを得て其れだけ米國品に對する需要を增加せしむることゝなるのである。

四　國際貿易の奬勵と英國の國際貿易金融政策

英國は世界大戰爭中、千二十一億餘圓の戰費を費し、七十五萬人の戰死者を出し、戰前僅に七十億圓に過ぎざりし內國債を一躍、七百億圓に增加し、外債又百四十億の巨額に達した。戰前、莫大なる外國放資をなし、國際經濟上、最も有力なりし債權國、英國は忽ちにして其の地位を失墜し、北米合衆國に對しては戰前、約百億圓以上の國際放資をなしたりしもの、戰爭中、其の米貨證券を悉く米國に賣り付け、尙ほ其の上に米國より百三十億圓に達する巨大なる債務を負ふことゝなつた。筆者が一九二二年（大正十一年）の歲晩、米國首府

華盛頓に遊びしとき、現英國首相、當時の大藏大臣ボールドウインの英蘭銀行總裁、ノルマンと共に手を携へて華盛頓に至り、此の借入金の申譯をなすと共に終に低利年賦の償還方法を協定せるを見聞し、將來は總理大臣ともなるべき大英國の藏相ともあらうものが、其の中央銀行總裁と共に債務協定の爲めワザワザ債權國の首府に殊更ら腰を低くして入京せるに轉た今昔の感を催ふしたことがあつた。但し之に依りて英國の對米債務は大に其の負擔を輕減されしものなるが、それにしても英國は尙ほ年々外國に向つて巨額なる債務の利子を支拂はざるを得ざるに立ち至つたのである。又、之も戰前、英國は年々十五億圓に達する輸入超過を示しつゝありしが、此の莫大なる輸入超過は多く國際放資の利子幷に利潤の收入を以て之に振り替へ、加ふるに尙ほ年々新たに十五億圓乃至二十億圓の國際放資をなす程、綽々たる餘裕を有したるものなりしに今や其の收支欠に變じて債務に對しては年々巨額の金利を支拂ひ、且つ國際貿易勘定

に輸入超過を示して居る。最近其の經濟的回復著しく、其の地位大に改善せられしも、一時の英國の難境や知るべしとも云ひ得よう。英國貨幣磅の對外價値が一時大に下落し、爲替相場は甚しき逆調を呈して暴落したるも亦止むを得ざる成行と云はざるを得ない。磅は一時、三弗二十仙臺にまで下落したることがあり、我が國の爲替相場の下落に稍や髣髴たるものがある。爲替相場の下落は之れ又、我が國の事情と同じく輸入を抑制して輸出を奬勵し、輸出超過の趨勢を誘致すべき理なるも、英國の製造品は多く其の原料を外國より輸入し、之に加工するものなれば、其の輸入する原料品は爲替の下落するだけ、それだけ騰貴することゝなり、斯る原料を使用したる製造品の價格は引上げられ、却つて一般物價を引下るよりも引上げ、爲替の下落は一般に輸出貿易を奬勵すべき理なるも、物價の騰貴に依りて却つて其の進展を阻礙せらるゝ虞あり、英國の國際貿易は徒らに樂觀するを許されない狀勢となつたのである。

茲に於て英國に於ても國際貿易、殊に輸出貿易を大いに振興するの必要に迫まられ、種々なる施設を試みるにいたつた。卽ち戰爭中には既に外國貿易金融會社 (Foreign Trade Corporation) を設立したるを始めとし、次いで海外通商局 (Department of Overseas Trade) を創設して外國通商に關する情報の蒐集、散布に努め、或は英國工業聯合會 (Federation of British Industries) の活動を見るに至つた。併乍ら對外貿易を奬勵するを目的としたる戰後の貿易金融の施設は右外國貿易金融會社の外は、英露貿易會社竝に外國貿易奬勵法を推さねばなるまい。今其の概要を述ぶれば一九一九年九月、英國政府は輸出貿易奬勵の爲め輸出前貸金制度を設け、其の金額二千六百萬磅迄を支出することゝした。此の制度は本來爲替相場下落の爲め窮境に陷りたる東部歐洲に對する輸出を增進せしむるを目的としたるものなりしが、當時英國の商工業者は國內の需要竝に外國よりの現金註文の爲め忙殺せらゝの狀態で、此の制度は餘り多く利用せらる

るに至らなかつた。之を以て一九二〇年四月政府は英國下院の協贊を經て之を改正し、前貸金の最高金額二千六百萬磅は之に變更を加ふることなかりしも主として東部歐洲に對する輸出に對しては其の原價の八割迄を貸付くることゝし期限も亦之を延長して三ヶ年以内とし、其の貸付の方法は凡て銀行を通して之を行はしめ、其の利率は英蘭銀行の公立割引歩合よりも一分高く、最低を六分とし、別に二分乃至五分の手數料を徴收し、以て斯る信用の賦與並に保險引受に關する商務院の經費を償ふことゝした。而して輸出貨物の原價には運賃、保險料並に輸出業者が商務院信用局に納付すべき手數料をも包含することゝした。但し同じく英國の輸出貨物にありても原料品又は政府餘剰品に對しては信用を與へず、必ず其の一部又は全部が英國に於て製造又は產出せられたるものなるを要することゝした。而して英國に於て製造若くは產出せられたる部分が多ければ多い程、より多く信用上の優先權を與へらるゝのである。然るに此の

制度は之を實際上に運用するに當つて不備缺點の發見せらるゝもの甚だ少なからず、倫敦商業會議所、工業聯合會等も亦其の改正を要望し、一九二〇年十月貸付割合八割を十割に增加せしが、一九二一年二月に於て尙ほ其の貸付金僅かに一六〇萬磅に達するに過ぎなかつた。斯る狀態に於ては海外貿易上、決して效果の顯著なるものと云ふことを得ない。之を以て一九二一年三月、以上述べたる輸出貨物前貸金制度を根本的に改正し、前貸金を全然廢止して政府は輸出貨物原價の七割五分を保證することゝし、政府保證手形を普通手形の如く、割引市場に於て割引せしむることゝし、外國購入者は其の輸入品の金額に相當する担保を提供するを要せず、半額にて足れりと云ふことに改正した。

英露間の貿易は英國に對して甚だ重要なる關係を有する。卽ち露國は英國に對して一大原料供給國たると同時に英國製品の一大市場である。然るに露國に於てはソビエット政府の下に共產主義が實行せられ、露國に於ける金融並に政

治上の關係は頗る特異の狀態となつたので、之と信用を設定し、取引を行ふことは甚だ簡單には行はれない。且つ一時は世界の財界は輸出は杜絶し、金融は梗塞し、工場は半ば休業し、失業者相次ぐの狀態で、英國も亦其の數に洩れず且つ事物を自然の狀勢に放任するに於ては露獨互に相接近せんとするの虞があつたのである。玆に於て英國に於ては英露の貿易を進展せしめんと欲し、ソビエット政府の代表者エム・クラシンと協定し一の特別なる施設をなすことゝした。之れ卽ち一九二一年一月發表せられたる英露貿易會社で、之も亦一の貿易振興策であり、同時に國際貿易金融上の一施設である。英露貿易會社は資本金一千萬磅、英露兩國に於て各々其の半額を引受け、會社を二部に分ち、一部を英國に一部を露國に置き、英露間の貿易に從事するを目的とする。卽ち英國は露國の需要に應じて英國及び其の植民地の製造品を買入れ、之を露國に輸出し、英國に輸入せらるゝ露國生產品全部の販賣の任に當り、露國は英國製產品を露

國に於て販賣し、英國の需要に應じて、露國生產品を蒐集し、之を英國に輸出し、兼ねて之が金融の事務を取扱ひ、別に聯合委員會を置きて、兩國民間に發生する商業上の契約若くは債權債務に關する爭議を審査調停するの役目を務めしむることゝした。而して露國に於ては會社凡ての組織並に事業はソビエット政府の直轄獨占とする所であるが、英國に於ては甚だ自由で、會社は製造家竝に商業者と直接取引をなし、唯會社を通して對露貿易に從事せしむるのである。又會社は英露兩國共に賣買二步の金融に對し、一步の手數料を徵收し、其の收入の半額は英國の資本に對し、他は露國政府に分配する。且つ英國に於ては政府は既に述べる輸出信用資金二千六百萬磅中より英露貿易會社資本金の英國より出資すべき五百萬磅の半額たる二百五十萬磅を十ヶ年間無利子、其の以後は年五分の利息を以て會社に貸付け、二十箇年後に於て元利金の償還をなさしむることゝし、大に對露貿易を奬勵することゝした。之れが英國の對外貿易金融

政策の一端である。

五　國際貿易の奬勵と佛國の國際貿易金融政策

佛蘭西は世界大戰爭に於て最も甚しき戰禍を蒙つた國である。戰爭は多く其の領土内に於て戰はれ、之れが爲めに荒廢に歸せしめられたる土地は實に四百萬英町の廣きに及び人を失ふこと實に百七十萬人に及んだ。農業は荒廢に歸し工業は萎靡し、輸出は衰退し、國際貿易は夥しき輸入超過となり、佛蘭西銀行發行の兌換劵は不換紙幣となり、公債も亦莫大なる金額に達し、年々歳々支拂ふ利子のみにても百億法を遙かに越ゆるに至つた。爲替相場の暴落も亦止むを得ざる狀勢である。戰後、佛國は孰れにするも國際貿易を振興するの經濟政策を採用するの外はないのである。戰前に於けるが如く、單に公債の利子に依賴して安惰なる生活に耽ることは困難となつた。所謂 Rentnerstaat たること能

はざるに至つた。之れ勿論、佛國民に取りては苦しきながらにも一の福音である。救はれたのであると云ふことが出來る。

國際貿易を振興するが爲めには國際金融上の施設が必要である。而して佛國に於ける貿易金融は戰前即ち一九〇八年の頃より既に其の必要を認められ、貿易銀行創立の議もありしが、佛國民一般に其の必要を痛感するに至りしは主として世界大戰爭後である。蓋し一日も早く經濟的回復を圖らざるべからざるが、そが爲めには一日も早く對外貿易を振興しなければならないし、對外貿易を振興するが爲めには貿易金融の整備をしなければならぬと云ふことを認めたからである。即ち佛國に於ける貿易金融機關たる外國貿易銀行は一九一九年、貿易業者、製造業者、竝に銀行業者の共同に依りて政府も亦極力之を援助し發起設立せられたるものである。而してそは既に一九一七年二億五千萬法の資本金を以て其の創立を計畫されたまゝ不成立となりし佛國貿易會社の跡を受けたるも

のである。左に少しく其の組織の梗概を説述しよう。

外國貿易銀行は中央國内組織、中央機關、及び外國代理店の三部より成立する。中央國内組織は專ら佛國の輸出業者が輸出をなしたる場合、外國貿易銀行に宛てゝ振出す手形を引受け、之に依りて信用を賦與する業務を行ふもので、手形の最長期限は九十日、手形面金額は債權總額の六割乃至九割である。斯くして外國貿易銀行に依りて引受けられたる手形は普通の手形と同じく普通銀行又特に必要なる場合には佛蘭西銀行に於て割引せらるる。而して一旦割引を求められたる手形が滿期日に達する時は振出人たる輸出業者は更らに一覽後三ヶ月拂の手形を振出して、その割引を受け、既に滿期日に達したる手形に代はらせる。之れ外國貿易銀行の資金の一時的缺乏を補ふ方法である。尤も外國貿易銀行は債權の回收に疑ある場合には手形を割引したる銀行に對し要求拂信用を與へて其の債權を保證する。又銀行は輸出貿易金融を專業とし、普通の銀行業

務たる預金、貸付、割引等の業務は營まない。

中央機關は銀行の最高諮詢機關たるもので、中央國内組織に附屬し、專ら各種の情報を蒐集する機關である。其の委員の三分の二は商工業者、三分の一は金融業者を以て之に充てる。外國代理店の行ふ主要なる業務は、(A) 管理、債權の回收、紛議の調停、(B) 外國商工業者の地位信用に關する情報、(C) 外國に對して振出されたる引受手形の提示、(D) 送狀の交付、(E) 滿期日に達したる手形の蒐集、(F) 債務者の信用に對し絶えず監視をなし、債務を履行せざる場合には適宜の處置をなすこと、(G) 法律上の手續、(H) 法律上佛國の利益を擁護すること、(I) 商業上の活動、(J) 貨物到着の場合、受入及檢閲をなすこと、(K) 運送中の損害の證明、賠償請求の主張、及貨物の保管、(L) 情報併に通信に關すること等に分たれて居る。之れ其の概要である。

六　國際貿易の奬勵と獨逸の國際貿易金融政策

獨逸は敗殘の憂目を見た。戰爭に勝つと負けるとは寔に恐るべき差異を生ずるものである。人口は戰前六千七百八十萬人なりしもの、戰死、飢餓、領土の分離等に依りて四千五百萬人に減じ、鐵と石炭とを奪はれ、國富著しく減少して賠償金は千三百億金馬克と云へる莫大なる負擔を課せられた。兌換銀行券は不換紙幣となり、公債濫りに增加し、貨幣の對外價値、換言すれば爲替相場は大に下落した。併しながら獨逸は回復しなければならぬ。而して其の回復は既に以上述べ來りたるが如く、國際貿易、殊に輸出貿易の振興にあり、輸出貿易の振興の爲めには貿易金融を必要とする。

然るに獨逸は之れ又既に說述したるが如く貿易金融の本家で、元祖である。此の獨逸の貿易金融の制度は戰後大に各國に模倣され、獨逸は今や自ら其の發

明したる方法に對して競爭せざるべからざるに立ち至りたれば、此處に一の新機軸を出さなければならない。其の新機軸は卽ち製造業者貿易信用組合である。

此の製造業者貿易信用組合は生產業者自ら擔保を提供し、而も單純なる同業者のみにては完全ならざるが故に全獨逸の生產業者、互に相團結して一の信用組合を組織し、各生產者は組合の貸付金を以て事業を經營し、組合の債務に對して各自連帶の責任を負ふと同時に組合の獲得したる信用に對しては其の分配に與かるの權利を有する組織である。蓋し、獨逸國內に於ては生產業者は銀行或は民間より信用を受け、金融の便を計ること能はず、然ればとて外國人に對して擔保を提供することも容易ならず又政府にして對外信用に關與するときは聯合國復舊事業の爲に賦課せらるゝの虞あり、僅かに獨逸帝國銀行をして仲介機關として援助せしめ得るの外、他に良法なきが故に斯る制度を考案したのである。されば此の組合は法人組織なること云ふ迄もなく、獨逸の商工團體は短

期併に長期の證券を保證して之を外國の金融業者に付與し、株式資本其他の方法を以て獨逸の會社事業に投資せんとするものに此等の證券を付與するのである。而して此の組織は全然獨立する商工業者の私的機關で、一切政府の保護干渉を受けず、食料品を販賣せず、唯獨逸帝國銀行をして其の仲介者たらしむるに止める。

若し商工業者にして原科品を必要とするときは其の需要の額を所屬產業組合に報告し、產業組合は之を査定して信用組合に報告し、同時に擔保を審査する。又信用組合は原料品の輸入を管理し、輸入の爲め設定する外國信用は悉く之を信用組合に讓渡せしめ、同時に原料品並に商品輸入の爲め生ずる外國信用は加工品に對する抵當權を擴張し、原料品に對しても此の信用組合は抵當權を行使する。而して外國に輸出する商品の代金併に債權は一々之を組合に報告せしめ輸出より生じたる爲替手形は凡て之を組合に讓渡せしむる。組合は爲替費用並

に事業經營費を支拂ひ、準備金を積立て、資本を償却するが爲に輸出價格の五歩並に凡ての割引手形に對し一歩の手數料を徴收する。又貿易信用組合の中央機關は全獨逸生產業者の代表者を以て之を組織し、雇主側も使傭者側も同樣に代表せしめらるる。組合の執行機關として理事會あり、理事の數九名、總裁一名、副總裁二名を置き四名以内の主事會を設置し、内一名を首席主事とし、專ら組合の事務を取扱ふものとする。

第三　我が國際貿易金融の現狀

一　總說

歐米の諸國が其の貿易金融の爲めに採る所の施設概要は上述の如くである。孰れも世界大戰爭後、其の經濟的復興を圖るが爲めに計畫せる方策で、現時の經濟狀態に於ては各國、何れも其の國民經濟の充實を期せんと欲すれば、勢ひ

必ず國際經濟的發展に待たざるべからざるを感知せる結果である。國民經濟と國際經濟との關係世界孰れの國よりも密接且つ緊要で、國民經濟は大に國際經濟的事情に依りて左右せられ、國内に於ける景氣、不景氣は既に論述したるが如く、對外經濟的關係、殊に國際貿易の盛衰消長に依りて規定せらるとも云ふべき我が國に於ては此の國際貿易金融は極めて重要なる關係と意義とを有する。

二　國際貿易金融と荷爲替及信用狀

併しながら玆に貿易金融と稱するも、貿易金融は常に自國の輸出貿易を奬勵し、之を助長發達せしめんことを主眼とするものなるが故に輸出貿易金融たるや敢て言ふ迄もあるまい。而して輸出貿易金融は多くの場合、貿易商若くは生産業者が輸出をなす際に荷爲替手形を振出し、之を銀行に持參して、之を買入れしめ、以て資金の融通を受くるの方法に依るのである。素より我が國に於

ても米國へ輸出する陶器の如き、之を輸出するも、其の商品が米國へ送られ、販賣せられて後、其の代金が我が陶器製造會社の支店より送付せらるゝ場合の如き、全然、無爲替なるものも間々無いではない。又支那商人のごときは商品を輸出する度毎に荷爲替を取組むのではなくて、年に一回若くは二回、クリーンビル (clean bill) を振出し、これに依つて決濟するを常とする。但しクリーンビルは其の名の示すが如く船荷證券若くは其他の所謂 Shipping Document を添へざるのみならず、寧ろ多くの場合、無擔保なるものなるが故に、銀行は時として之が爲めに莫大なる損失を蒙るの危險を犯さなければならぬ。

此の荷爲替を取組むこと、換言すれば爲替銀行が、輸出荷爲替手形を割引すること、更らに換言すれば、爲替銀行が荷爲替手形を買入るゝに際しては、今や漸次に商習慣として信用狀の提出が之に伴ふの傾向となりつゝある。殊に歐米宛の手形に關しては最近、殆んど信用狀付ならざるものは稀となれるが如き

狀勢を馴致しつゝある。但し南洋並に印度方面宛の手形に就て之を言はゞ、此等方面宛の手形には信用狀付なるもの寧ろ少しと云ふ狀態である。惟ふに之れ此等方面の地方に於ける輸入業者には銀行をして信用狀を發行せしむる程の信用を有するもの比較的少なきと、又我が國の輸出業者にして此等方面の地方に支店を有するものも、未だ、銀行をして信用狀を發行せしむる程に取引關係密接ならざるに起因するのである。又そが事實に近しと云ふことである。

三　國際貿易金融とマーヂン

それで、若し信用狀付ならざる手形なる場合に於ては銀行は斯る手形の買入に對してマーヂン(Margin)若くは擔保物を要求するが普通である。マーヂンとは手形の割引、換言すれは買入の際、銀行が留保し置く金額で、其の金額は手形が支拂はれたる後に返還せらるゝものである。其の割合は手形面金額の一割乃

至二割を普通とすれども時にD.A.手形の場合に於ては五割にも達することがあるとのことである。從て輸出業者の側より之を云はゞ、マーヂンとして留保せらるゝだけ、其れだけ資金を固定せしむるもので、其の割合の多きだけそれだけ輸出業者の苦痛となるや敢て論ずるまでもない。擔保物の提供も之れ亦マーヂンと同じく其の結果に於て輸出業者の資金融通力を減殺せしむるもので、其の要求せらるゝとの多きは其れだけ輸出業者の苦痛とする所のものである。擔保物は普通有價證券なるを常とすれど、稀には不動產なることもある。擔保物を提供すればマーヂンを留保せらるゝことは之を免れる。勿論、双方共に同時に行はることは理に於てあり得べからざることである。

四　國際貿易金融の期限

爲替手形の期限は普通、標準三ヶ月と云はるゝも、輸出品の種類と輸出先の

如何に依りて必ずしも同一ではない。卽ち生絲は戰前、最長期で、手形の期限は六ヶ月なりしことありしが、其の後四ヶ月となり、現在に於ては三ヶ月である。南洋及び印度方面向の雜貨の輸出手形は六十日で、支那向の綿絲布類の手形は六十日乃至三十日を普通として居る。尤も其の中、臺灣銀行に於て取扱ひつゝある南洋向の手形は其の四分の一乃至三分の一位は三十日位の延期をなさざるべからざる事情の下にありとのことである。

五　國際貿易金融の金利

爲替手形に最も重要なる關係を有する金利は本來其の手形の振出地に於ける金利を標準とするものではなくて、其の手形の支拂地に於ける金利を標準とするを通則とする。之れ爲替手形は其の振出地より支拂地に送られて其處に、銀行に於て割引せらるゝが故である。殊に外國貨幣を以て手形の額面金額を表示

せられたる所謂外國貨幣手形、就中、磅手形、或は弗手形の如きは金利の低き英米の金融市場に於て其の手形割引を行ひ得べきが故に手形の振出地たる我國の銀行に於て手形を割引する場合にも從て其の金利は安い。且つ外國爲替に關しては爲替銀行は爲替相場の Speculation を行ひ、之により相當の利益を占め得るのであり、此の爲替相場の Speculation は最近殊に相當盛んに行はるゝのである。斯る事情の下に於て我が國に於ても普通金融市場の割引歩合が、二錢四五厘の日歩なる際に外國爲替手形の割引歩合は横濱正金銀行竝に臺灣銀行に於ては六分程度である。此の金利は一般金利の標準高き我が國に於ては決して高しと云ふことは出來ないのであらう。

併しながら此處に一言特に注意し置かざるべからざることは、外國爲替手形の金利には上述の如き特別なる事情あり、我が對外貿易金融機關の外國爲替手形の割引利率は決して高きにあらざるものなるにもせよ、上述の如き低利の利

率を應用せらるゝ爲替手形は實は小數の一流物に限らるゝもので、信用高き一流當業者の振出したる手形以外、一般當業者の手形は決して右の如き低利を以て取扱はるゝものにあらざること是である。素より一般當業者の手形にも其の信用程度の厚薄に依り、其の利率同一ならず、區々なるものあれど、一流物六分程度の時に於ては普通、六分以上、時には九分内外に達するを常とする。從て南洋や印度方面の雜貨を輸出するものは常に最も不利益なる地位に置かるゝ狀態である。之れ大に注意しなければならぬことであらう。

六　國際貿易金融と前貸制度

尙ほ輸出貿易は輸出の準備をなすも未だ實際上、其の商品の船積をなさゞる以前に於て金融の必要を生ずることがある。商品を船積すれば直ちに荷爲替を取組むことを得べきものなれば、最早他の金融を必要とすべきに非ざるが、貿

易商は外國より注文を受け、商品を買ひ整へたるとき、或は製造業者は其の倉庫に製品を有して海外より注文を受けたるとき、未だ船積せず、從て未だ荷爲替を取組む迄に至らざるに資金を要することがあるのである。斯る場合には右の如き製造業者若くは貿易業者は爲替銀行に對し其の輸出品を船積し、荷爲替を取組むに當りては必ず當該銀行と取引すべきを條件として資金の融通を受くることがある。之を前貸制度、英語で Advance against Exchange Contract 又は Export Account 若くは Packing Credit と云ふて居る。此の金融は其の期限、其の性質上、甚だ短期で、普通に最長一ヶ月以上たることなく、其の金利も亦比較的低利で、通常六分である。而して多くの場合、無擔保である。從て此處にも亦注意せざるべからざることは貿易業者、若くは製造業者にして此の前貸の制度を利用し、比較的便利にして且つ低利なる金融の利益を享有し得るものは矢張り銀行の側に於ても相當信認し得るもので、所謂、確實なる、一流當業者の

大資本を擁するものに限らるゝと云ふこと之である。小資本の當業者は此の制度の恩惠を蒙ること能はざるものである。

七　新市場に對する輸出手形の金融

殊に我が輸出貿易の伸張の上に最も甚しき不便を釀しつゝあることは、海外新市場に對する輸出より發生したる輸出手形に對する金融の大に圓滑を缺きつつあること之である。卽ち我が國の銀行は新市場に對する輸出手形は其の回收困難にして且つ不安なりとし、斯る手形の取扱を喜ばざるの傾向があるのである。素より斯る新市場に對する輸出手形の場合に於ても、若し其の輸出業者にして資力豐富に信認確實なるものなるに於ては、銀行は比較的容易に對人信用に依りて貸付をする。從て斯る輸出手形の場合に於ても金融の利便を得るものは獨り大資本を有する一流當業者のみに限られ、弱小當業者は此の金融の利便

を得ること能はざるものである。其の上、我が輸出貿易を發達助長せしめんと欲すれば大に海外に於ける新市場を開拓せざるべからざる必要あるにも拘らず折角發奮努力の結果、新市場を開拓し、之に向ふて商品を輸出し、さて其の輸出手形に依りて金融を得んと欲するも、銀行は之に對して貸付を喜ばずとありては新市場の開拓は容易に之を望むこと能はず、新市場の開拓、容易に之を望むこと能はずば我が國際貿易の進展は從て又之を期待すること能はざることゝなるのである。之れ二重の缺點、損失なりと云ふべきである。

尙ほ新市場に對する輸出手形は倫敦宛に振出さるゝを普通とし、商品は新市場に向ふて輸送せられ、其の手形は倫敦に於て決濟せらるゝのである。

八　我が國際貿易金融の得失

我が貿易金融の內容は、以上說述したるが如くである。今之を歸納し、綜合

するときは左の如き結果となる。

一、我が貿易金融は資力豐富にして信認確實なる所謂一流、貿易業者若くは製造業者に對しては比較的圓滑に行はれ、其の金利の如きも國內商業に從事する當業者に對するよりも安い。而して尙ほ其他に手形のマーヂンも低く、前貸の制度も利用せられ、且つ新市場に對する輸出手形の金融も自由に之を得るの利便を有して居る。

二、然るに之に反して資力乏しく、信認薄き所謂中小當業者に對しては、貿易金融の疏通甚しく圓滑を缺き、其の利用する資金の金利は高く、マーヂンも亦高く、加ふるに前貸の制度を利用すること困難に、且つ新市場に對する輸出手形の金融は殆んど之を望むこと能はざる狀態である。

三、貿易金融に於ける資金融通の期間は生絲の如き六ヶ月より現在は三ヶ月に短縮せられ、南洋向手形の如き四分の一、乃至三分の一まで三十日位

の延期を餘儀なくせらるゝ程、期限は決して長期金融疏通の方法が講ぜられて居ない。

四、貿易金融とし云はゞ直ちに爲替業務を指すものと解せらるゝも、爲替は唯々國際貿易の決濟を主とするもので。取引後の云はゞ跡始末である。單に爲替金融のみにては未だ完全有效なる貿易振興の爲めの貿易金融なりと云ふことは出來まい。輸出貿易を發達助長せしむるが爲めには爲替に對する金融疏通の途を圖ると同時に、輸出品を製造する者にも金融疏通の方法を講じなければならぬ。然るに我が國に於ては一般普通の銀行は工業金融に關與せず、工業金融を使命として設立せられたる日本興業銀行は其の資力素より十分ならざるに、獨り工業金融に專らなること能はず、又、大震火災後、中小工業に對して工業資金を融通するに至りしも、此等凡て輸出工業を目標とするものにあらず、輸出品製造に對する

金融は甚だ不完全たるを免れない。

五、素より爲替銀行は營利會社なる以上、資力乏しきものは其の信認從て又薄弱なれば、信認の薄弱なる小規模の輸出當業者に對し、煩瑣にして危險性の多き手形を取扱ふを喜ばず、自ら貸出を躊躇し、資力豐富なる輸出當業者とのみ親密なる取引關係を結び、中小輸出當業者を繼子扱ひとするは止むを得ざることなりとするも、其の結果は是等中小輸出當業者を驅りて他の貿易商、若くは仲繼商人に其の製品を賣却せざるを得ざらしむることゝなるのである。斯くて此等中小輸出當業者は此等の商人より前貸の形式を以て資金の融通を受け、其の資金の融通によりて自ら此等商人の勢力の下に置かるゝことゝなり、終に其の商品の賣込に際しても此等商人の云ひなりに其の價格を叩かるゝことゝなるのである。殊に支那南洋方面向の雜貨の輸出の殆んど二分の一は支那商人の手に依りて

取扱はれ、此の弊害を最も如實に表はして居るのである。

六、以上の結果は我が輸出貿易の進展を妨げ、我が財界の景氣をそれだけ阻止壓迫することゝなるのである。

第四　我が國際貿易金融の改善

一　我が國際貿易金融改善の重心

我が貿易金融は資力あり信認確實なる一流輸出當業者に對するものゝ外、資金未だ充實せず、金利從て高く、期限も亦短く、概して金融の疏通圓滑ならず殊に輸出品製造に對する金融の利便なく、中小輸出當業者は之れが爲めに少なからざる不便不利を蒙りつゝある現狀は概略既に說述したるが如くである。斯くては輸出貿易の助長進展に資する所以にあらず、又延いて我が財界の繁榮を期圖する所以でもない。我が財界の繁榮を回復し、維持し、益々興隆せしむる

が爲めには輸出貿易を大に助長進展せしむるの必要あり、そが爲めには貿易金融の充實と其の改善とは是非共考慮せざるべからざる必要條件なりと云ふべきである。然らば我が貿易金融は如何に充實、改善せらるべきか。之れ次の問題である。

惟ふに我が國際貿易金融の充實と改善とは左の要項に其の重心を置かるべきであらう。

一、貿易金融に可成長期信用の融通方法を講ずること
二、利子歩合を可成低利とすること
三、マーヂンを低下せしむること
四、輸出品製造に對する金融疏通の途を講ずること
五、新市場の開拓、新販路の擴張に對し、特別の金融上の援助を與ふること
六、特に中小輸出當業者に對し、金融疏通の方法を講ずること

此の中小輸出當業者に對する金融は、我が國の如き紡績其他小數のものを除き、多くは未だ小規模を以て製造或は仲介を營みつゝある經濟組織を有する處に於ては、經濟上、社會上、共に極めて重要なる關係を持つのである。

二　我が國際貿易金融と重要輸出品工業組合並に輸出組合

大正十四年、我が帝國議會を通過し、法律として制定せられたる重要輸出品工業組合法、並に輸出組合法は共に中小輸出當業者を誘掖助長せんとするを目的とするもので、此の我國に於ける中小輸出當業者の國民經濟上甚だ重要なる關係を有する事實を認めたるものなりと云ふことが出來よう。即ち重要輸出品工業組合法は、中小輸出品製造業者の統一を圖り、兼ねて其の節制と規律を維持し、以て輸出品製造の改良統一を期し、我が輸出品に久しく付き纏ひたる粗製濫造を防止し、我が輸出貿易の進展を計らんとするもので、輸出組合法は重

要輸出品工業組合法に依りて我が輸出品の統一と改良とが實現せらるゝも、尙ほ我が中小輸出貿易商は資力に乏しき其他の事情から、互に聯絡もなく、目前の利益に沒頭して無法なる競爭をなし、拔け掛け的の巧名を得んとするか、或は他の貿易者の犧牲に供せられ、結局、我が國の不利益を釀しつゝあるが故に此等輸出當業者を統一し、其の弊害を芟除して、我が輸出貿易の振興を圖らんとするものである。其の主旨や極めて時宜に適したるものなりと云へよう。併しながら單に中小輸出品製造業者、苦くは輸出業者を糾合し、組合を組織せしめたればとて唯其れだけにて能事足れりとするものではあるまい。我が中小輸出當業者の最も大なる困難は常に資金の不充分なるに歸因するものなれば此の資金の疏通を圓滑ならしむるの方法を講ずるにあらざれば、所謂、佛を造りて魂を入れざるものである。十分なる貿易振興策とはならないのである。從て此等組合の詳細なる說明竝に批判は別に我が輸出品の品質改良と統一、及び粗製

濫造防止策を論ずる際に讓るべきもので玆處に詳論すべき限りではない。

併しながら、此の重要輸出品工業組合竝に輸出組合は表面、直接に金融に關係なきがごとくなるも、其の實、貿易金融に資する所甚だ僅小ならざるものありと思惟せらるる。其の故奈何となれば、從來、我が國に於ける中小商工業者は獨り輸出貿易に關係あるものゝみに止らず、一般に金融上、其の信用保證の爲めに甚大なる不便を感じつゝありたるに對し、其の運用方法の如何に依りては此等組合は多大の便宜を提供すべしと信ぜらるゝからである。卽ち從來、中小商工業者は單獨個別に金融を得んと欲し、之を求むるも、彼等は何分にも資力乏しく、確實なる信認を得ること能はざるものなるが故に金融業者は進んで之に資金を貸付くることを敢て肯じない。之を以て彼等互に相團結し、組合を組織し、組合の保證を以て金融機關より資金の融通を受けんと欲するも、今日迄の同業組合には其の組合員中に資力信認の大なるものあり、小なるものあり

て、資力信認相當確實なるものは自ら單獨に其の自己の信認を以て金融業者より資金の融通を受くることを得べきが故に、敢て他の保證を煩はすの必要なく從て同業組合を餘り重要視せざると同時に、此等のものは他の援助を藉らざるを以て自己も亦他に援助を與ふることを欲せず、資産信認確實ならざる弱小當業者の爲めに保證の地位に立たば、自己に何等の利益なきに、却つて不慮の損害を蒙らざるべからざることゝなり、同じ組合に屬すとは云へ連帶責任を以て保證の位地に立つことを敢て肯じない。玆に於て同業組合は金融上殆んど何等の效果を奏せず、金融業者に於て進んで資金を融通せんと欲するも、之を受くること能はざる狀態にある。之れ今日の實情である。然るに重要輸出品工業組合竝に輸出組合にして共同保證（ソリダリチー）の原則の上に立ち、互に相當程度のものを以て組織し、之を適當に運用して金融の便宜を圖るに於ては金融業者は敢て之に金融するを拒むべき理由あらざるを以て此等組合は直接に表面上

貿易金融を目的とするものにあらずとするも、間接に、貿易金融疏通の上に資する所極めて大なるものあるべきである。又此等組合が斯く運用せらるゝことは甚だ望ましきことである。

左は云へ我が貿易金融は重要輸出品工業組合や輸出組合の法の制定や、事實上、組合の設立を以て解決せらるゝ程簡單なる問題ではない。又之を以て滿足すべきではない。我が貿易金融は尙ほ他の方法を講じて以て其の金融の圓滑と資金の充實とを圖らなければならない。而してそは實に勢ひ我が貿易金融機關の改善に向つて進まなければならぬことゝなるのである。此の貿易金融機關に關する金融政策は自ら貿易金融其物とは別問題で、特に稿を改めて考察せらるべきであらう。

第五　我が國に於ける國際貿易金融機關

我が國に於ては夙に多くの人々の熟知せるが如く、貿易金融の機關としては横濱正金銀行を始めとして臺灣銀行あり、朝鮮銀行あり、他に普通銀行にして相當の信用あり、外國爲替業務を營む三井銀行、三菱銀行、住友銀行、第百銀行等あり、少しく廣き意味に於て日佛銀行、滙業銀行、中日實業、或は東亞興業會社あり、又日本興業銀行あり、孰れも直接若くは間接に國際貿易金融に從事する有力にして且つ必要なる機關である。

右の中、横濱正金銀行と臺灣銀行とは我が輸出貿易の金融機關たる使命を以て設立せられたるもので、我が國輸出手形總額の六割乃至七割は實に右兩銀行に依りて取扱はるゝものである。而して右兩銀行の內、横濱正金銀行は專ら歐米竝びに支那宛手形の取扱を主とし、其の手形は大部分、大口の金額大なるものなるに反し、臺灣銀行は主として南洋、印度竝に南支那に對する手形を取扱ひ、其の手形の金額は大部分小口なるものが多い。此の横濱正金銀行の貿易金

融に大口のものを取扱ひ、臺灣銀行の主として小口のものゝ多きは之れ素より此の兩銀行間に貿易金融上分業が意識的に行はるゝ譯ではない。そは主として兩銀行の創立の趣旨、其の歷史沿革組織竝に資金の上の實力に依りて然るのであらう。卽ち横濱正金銀行は夙に明治二十年、早くも我が國際貿易の爲め爲替銀行として設立せられたるもので、明治三十年臺灣銀行が創設せらるゝに至るまでは我が國唯一の爲替銀行に屬し、相當古き歷史を有し、世界到る處に支店出張所若くは關係取引銀行を設け其の資力は之れ亦相當充實し、到底最近に於ける臺灣銀行の比ではない。從て貿易金融上の取引關係も古く、資力あり信認確實なる一流貿易當業者は殆んど悉く横濱正金銀行と取引關係を結び、之と共に其の取引額も自然大口となつたのである。而して其の取引關係にして資力信認共に確實なる一流當業者を相手に取結ばるゝに於ては其の信認厚きだけ其れだけ取引も簡單に又危險も少く、損害も稀に、換言すれば安全有利である。資

力乏しく、信認薄き弱小なる當業者を相手に煩瑣にして危險多き取引を好まなくなるのは自然の理である。加ふるに弱小輸出當業者の側に於ても銀行にして金融の便を與ふるを好まざる態度を示すに於ては、縱令其の取引にして有利なるにもせよ、之に赴くを欲せざるのみならず、横濱正金銀行に於ては斯る種類の當業者に對しては之に信用を與ふる場合にも、其の取引銀行たる內地銀行の保證を得るを條件とすること多く、從て當業者は其の保證料を支拂ふだけ其れだけ高利となり、不便と不利益を忍ばざるべからざることゝなるのである。殊に支店銀行に於ては後日の責任を虞れて危險なる取引を能ふ限り極力廻避せんとするの一種の心理狀態を有するを以て、弱小輸出當業者は横濱正金銀行と小口の取引をなすこと能はざるの狀態である。素より横濱正金銀行は政府の命に依り年僅かに二步の低利を以て一千五百萬圓の爲替資金を日本銀行より融通せられて居り、其の目的は輸出促進にあるが故に横濱正金銀行は此の恩惠に依り

ても縱令煩瑣であり面倒であり且つ多少危險を犯してまでも、そが輸出促進にある以上、小口資金に對する貿易金融の便を與ふべきなりと主張せられざるにもあらされど、往時の一千五百萬圓は兎に角として現時に於ては千五百萬圓の爲替資金は其の總額戰時中の如き五億圓以上にも達する際、比較的僅少なる金額なるを以て、之を以て直ちに凡ての小口資金に對する貿易金融の疏通を圖るべしと云ふことは甚だ困難である。現に右述ぶるが如く、事實、小規模なる輸出當業者は其の利便を享けて居ないのである。茲に於て小口の弱小當業者は臺灣銀行に赴き、最近の臺灣銀行又其の資力に限りあり、活動意の如くならず、爲替資金常に缺乏しつゝあるを以て終には小規模輸出當業者は直接に輸出をなすこと能はず、勢ひ他の貿易商、或は仲繼商人に依賴し、前貸の形式を以て資金の融通を受け、甚しき不便と不利益とを忍ばなければならぬことゝなりつゝある。之れ勿論現狀である。

朝鮮銀行は元と我が新領土、朝鮮の爲めの金融機關たりしものなるが、其の後滿州に進出し、現在に於ては滿州竝に北部支那地方に對する輸出金融機關であり、三井、三菱、住友及び第百等の如き銀行は普通の商業銀行で、外國爲替業務を營めど、爲替銀行として爲替の業務に專らなるものではなく、主として同系會社又は當該銀行に預金を有し常に取引關係ある商人に對してのみ外國爲替を取扱ふもので其の營業の範圍は自ら限局せられ、此等の銀行全部を包括するも我が國の輸出手形の總額の三割以上を占むるものではない。

其の他、日佛、或は滙業銀行、若くは中日實業、或は東亞興業會社の如きは爲替銀行と云ふよりも寧ろ國際放資に對する機關なりと云ふべく、日本興業銀行は一般工業に對する金融機關として創設せられしものなるも、其の後外資輸入其他の國際金融に關する業務に重きを置き、爲替銀行ならざるも一種の對外金融機關なりと見做されざるにもあらざりしが、大正十二年の大震火災後、中

小工業に對する金融疏通の方法を講じて之に資金を融通し、再び其の創立の趣旨に立ち歸りて工業金融の機關たるの實を示さんとするに至つた。然るに一般工業、若くは中小工業に對する金融機關たることは必ずしも國際貿易金融に直接何等の交渉なきが如くなるも、我が國の中小工業の生產品は所謂雜貨として輸出品たるもの多く、從て斯る中小工業に對する資金の融通は軈て廣き意味に於て國際貿易金融の一部なりと云ふべく、斯る金融を主とする金融機關卽ち日本興業銀行は其の意味に於て亦對外金融機關なりと云ふことが出來ない譯ではない。而して眞に國際貿易を助長發展せしめんと欲すれば貿易金融を充實せしむるの必要あり、貿易金融の充實は先づ輸出品生產の爲めに其の工業資金を充實せしむるを最初にして且つ甚だ重要なる條件なりとすと云ふことを知らなければならぬのである。從て日本興業銀行が大震災後中小工業に其の工業資金を融通するに至りしは其の意義極めて重要なるものがあるのである。

第六　國際貿易金融機關の改善

一　總　說

國際貿易に關する金融上の要求が何んであり、又其の要求の焦點は何處にあるやは前に既に之を述べた。此の要求は如何にして充たさるべきや。重要輸出品工業組合や輸出組合は唯、間接に貿易金融に資するに過ぎず、又既設の横濱正金銀行や、臺灣銀行や、其他の金融機關にして存在しながらも、尙ほ貿易金融上の要求を完全に滿たすこと能はずと云ふならば、此處に貿易金融機關を改善し、以て貿易金融上の必要に應ぜざるべからざる結論となる。蓋し對外貿易の盛衰消長は我が財界の景氣不景氣の上に極めて重大なる關係を有するからである。

然らば貿易金融機關の改善は如何にしてこれを實行すべきや。其の具體的方法奈何。之れ問題である。しかるに此の貿易金融機關の改善に關しても其の方法に種々ありて既存の貿易金融機關を其の儘、改普するも一方法たれば、また既存の貿易金融機關にして實際上、滿足に貿易金融上の必要に適應すること能はざるものなれば、寧ろ貿易金融は既存の機關以外に其の適應性を見出し、茲に國際貿易金融機關を特設せんとするの論議が生ずる。

對外貿易金融機關を特設せんとするの議は曩に世界戰爭中、東京商業會議所に於て其の必要を主張し、之を立案して屢々委員會を設けて之を論議し、其の後、總會の議を經て之を可決確定し、更らに大正十年、大阪に於て開會せられたる全國商業會議所聯合會に提案し、之も亦可決せられて政府當局に建議せら

二　國際貿易金融機關の特設

れたものがある。從て國際貿易金融機關を特設すべしとの主張は我が國に於ては特に全國商業會議所全部の提唱する所なりと見做すべきである。さて果して然らば其の內容や如何。

今右の如く提唱せらるゝ國際貿易金融機關の目論見書を見るに右の機關は國際貿易金融株式會社と稱せられ、特に銀行と云はない。之れ恐らく英米に於ける貿易金融の制度に其の範を執りたるものである。其の目的とする所は

一、各種の貿易業者並に輸出品製造業者に對し直接又は間接に比較的長期且つ低利なる資金の融通を爲し特に動產不動產に對する貸付をなすこと

外國購入者が確實なる擔保を提供する場合は直接購入資金を貸付け又は必要と認むる場合は輸出業者製造業者連帶の手形を保證し更らに進んで其代金の前貸を爲すこと

二、外國爲替の賣買、取立及引受並に信用狀の發行を爲すこと

片爲替に偏する場合に於ても成る可く其手形の買入及引受の便宜を計ること

三、掛賣或は掛買の場合に於ては資金の許す限り物品代金の立換或は一部の假渡を爲し又は手形の振出及引受を爲すこと

四、貿易業者其他政府銀行船主等の代理又は媒介を爲すこと

五、外國に於ける各種事業の權利を取得、保有又は處分すること

六、外國取引調査及各種企業の調査、設計引受、仲介を爲すこと

七、貿易に關する諸種の手續を代辨すると共に信託業を營むこと

八、各項の目的を達するに必要なる附帶事業を爲すこと

等であり、而して資本金額は二億圓とし、官民聯合の出資に依り、又株式に配當し得べき利益金額が拂込資本に對し年百分の七の割合に達せざるときは其の不足金額を政府に於て補給すべきを要求し、且つ拂込資本金額の十倍以內の社

債發行の特典を受けんことを求めて居る。

「惟ふに既存の貿易金融機關にして我が國民經濟に極めて重要なる關係を有する國際貿易に對する金融上の必要を充たすこと能はずんば、別に新たに貿易金融機關を特設すべしとの主張は一應の理由はある。併しながら、前述の如き國際貿易金融株式會社の計畫は果して適當なるもので、又實行し得べきものであらうか。今其の目論見書に依るときは右の貿易金融機關は獨り爲替に關する業務を營むのみならず、或は輸出品製造に對する工業資金を融通し、或は不動産に貸付け、或は手形の保證引受をなし、或は利權の獲得、處分をなし、或は各種の仲介、調査、情報の事を掌り、或は外國に對する放資、或は進んでは信託の業務をも兼營し、其の營業の範圍は可成り、複雜且つ、廣汎である。言を換へて之を說明すれば、右の貿易金融の機關は爲替銀行、企業銀行、不動産銀行海外銀行、引受會社、信託會社、及び商務官の事務及び業務一切を、無論國際

貿易の立場の上よりなりとは云へ、無差別に兼營せんとするものである。其の煩雜なるや想像に餘りがある。

抑も貿易金融の機關は右の如き煩雜且つ廣汎なる業務を兼營し、そが調節、統一を所期し得らるゝや否や。銀行の經營には分業式と兼營式とがある。今此處に其の詳細に亘りて其の利害得失を批判し、論評せんとするにはあらず、又斯くすることは決して適當なる場所にあらずとするも、右既に述べたるが如く貿易金融の機關が餘りに煩雜なる業務を兼營し、短期信用のものもあれば長期信用に屬するものもあり、其の營業の範圍は內外國に跨るとすれば之が統一、調節は縱令不可能にあらずとするも甚だ容易ならざるものあるに相違ない。殊に資本未だ豐富ならざる我が國に於ては資金は成る可く之を有效に利用するが爲め、銀行經營の方式は分業式に依るよりも兼營式に依るを以て國民經濟上、有利なりとするの論據にして維持し得べく、又其の意味に於て右の貿易金融の

機關は兼營主義に則るものなりとするも、既に我が國に爲替銀行あり、興業銀行あり、其他の金融機關存在する以上、更らに別に國際貿易に對する金融機關を特設せんとするは之れ我が國、銀行制度の分業式なる其の上に尙は分業式を重ねんとするもので、屋上屋を架するものである。我が國の金融制度は後にも述ぶるが如く兼營主義に依るべく、かなり分業式なる其の上に尙ほ分業主義に進むべきものではない。如何にも右國際貿易金融株式會社は種々雜多なる業務を兼ね營むものなるが故に之れを兼營主義なりと云はれざるにもあらざれど、其の業務は餘りに雜然として統一すること難く、理論の上に於ても其の調節を求むること容易ならずして、而も既存の金融機關以外に尙ほ新たに一の貿易金融機關を特設せんとするものなれば、窮局する所、分業式に向ふて進むものなりと云はざるを得ないのである。

よしや假りに右貿易金融機關の業務にして調節され、統一せらるゝ確實性を

有するものなりとするも、其の資金は何れに之を求むべきや。資本金には自ら限りがある。之を銀行の受働的業務たる預金の吸收に努むと云ふも預金は短期信用に屬するものである。然るに右貿易金融機關は不動產に對する貸付さへ之を營みて長期信用に屬する金融をなさんとするのである。銀行經營の根本的原則は簡單に其の融合を許さない。且つや貿易金融には多少の危險之に伴ふものなれば最も確實に其の信認を維持すべき預金を輕卒に右の如き貿易金融に無條件に利用するは稍や困難である。現に之を我が横濱正金銀行に就て見るも、其の預金は其の銀行の信認程度の厚きことや、資本金額の大なることや、政府と特別なる關係のあること等に鑑みつゝ、他の所謂普通銀行に比較するも、其の金額、遙かに及ばぬ程に僅少である。預金に依賴して資金を吸收することは到底不可能である。茲に於て債券の發行がある。

併しながら拂込資本金額に對する十倍の債券發行は一の大なる特典なりとは

云へ、此の債券は果して容易に發行し得らるゝや否や。債券を發行するも之に應募者を得ること能はざれば債券の發行は決して特典なりと云ふこと能はず、又之に依りて貿易金融の資金は吸收することも不可能である。勿論其の條件、卽ち金利及期限にして應募者の放資心を誘發し得るに足るものならんには、債券の發行必ずしも困難ならざるべきも、應募者を滿足せしむる條件は期限短くして利子歩合の高きことである。然るに貿易金融の資金は低利にして比較的長期なるものを必要とするが故に金利高く比較的短期ならざれば債券を發行して資金を吸收すること能はずとせば、斯る債券の發行は貿易金融の目的に合致せず從て債券の發行は其の用をなさゞることゝなる。現に之を我が國の實際に就て見るも、既に記述したるが如く外國貿易より發生したる手形は大體に於て年利六分を以て割引せられつゝあるに對し、金融稍や緩慢なりと云ひながら、一般社債の金利は七歩二厘以上ならざれば應募者を得ること能はざる現勢である。且つ日本興業銀行にせよ、北海道拓殖銀行にせよ、將た又農工銀行にせよ、法制上、完全に債券發行の特典を與へられつゝあるにも拘らず、其の債券の發行は現實非常なる困難を感じつゝあるのである。唯單に債券の發行を許されればとて比較的高利且つ短期にては其の用をなさず、然ればとて低利にして長期の資金を吸收すること能はざれば貿易金融上、是れ又其の實益なきことゝなるのである。

茲に於て日本勸業銀行に於けるが如く、低利にして長期の資金を吸收せんと欲するならば、債券の發行に割增付の特權を賦與せられなければならぬ。併しながら、割增付を輕卒に許可することは大に考慮せざるべからざることで、濫りに射倖心を徵發するの外、金融界、自然の趨勢を妨げ、證券流通の上にも種種なる弊害を生ずるの虞がある。而も割增付債券の發行にも、我が國に於ては其募集し得べき金額に年々大凡そ一定の制限があり、割增付なればとて無制限

に募集し得らるゝものではない。現に勸業債券の募集に於ても、復興債券の發行に於ても此のことは明瞭に證明せらるゝのである。素より國際貿易は我が國民經濟上に至大の關係を有するものなれば、其繁榮や之を圖らざるべからず、そが爲めには貿易金融上、特種の保護、特典を與へざるべからずとせば、其特典、保護其れ自身に對しては敢て反對せらるべきではない。但し、其保護、特典其れ自身にして其效用なきものなるに於ては斯る方法に依賴するは無益である。茲に於て貿易金融に對しては後にも說明するが如く、他の方法に依るべく債券の發行に多くを期待することは終に自ら欺くの結果となるの虞がある。

我が國、商業會議所聯合會に於て主張する所の貿易金融機關の特設に關しては理論上、上述の如き難關がある。其の上、實際上に於ても我が國には既に橫濱正金銀行、臺灣銀行、日本興業銀行、其他の金融機關あるにも拘らず尙ほ新たに一貿易金融機關を特設せんとするものなれば此等の金融機關相互の間に於

て其の營業の分野は如何に之を定むべきや。茲に競爭の起るべきは自然の理であり、特典を有するものと有せざるものとの競爭が不公正なるは敢て言ふを俟たない。既設の金融機關は斯る新貿易金融機關の發生を不利なりとし、其の設立を妨げんとするは之れも亦自然の理である。其の創立茲に於てか困難に陷るのである。

其他此の貿易金融機關は拂込資本金額の十倍に達する債券發行の特典を要求する外に二億圓の資本金は官民聯合の出資とし、七分の配當保證を得んことを求めて居る。若し我が國の貿易金融にして斯の如き方法に依るにあらざれば其の金融疏通の途なしと云ふならば卽ち止む。苟も他に其の方策ある以上、斯の如き偏頗なる保護政策は之を實行すること到底不可能である。其の故奈何とならば七分の配當保證の如き、若し其の保證にして眞に直接貿易資金として利用せらるゝものゝ金利を低下せしむるの效果を奏し得べき確實性を有するなら

ば、尙ほ恕すべしとするも、右の如き保證は多くの場合、唯々一部株主の利益を保護するに止まり、貿易資金の充實、竝に其の金利の低下には間接にして甚だ微弱なる效果を及ぼすに過ぎざるが爲めである。又右の如き方法は徒らに資本家の專恣を助長するの虞がある。貿易金融の爲めに一部株主の利益を圖り、資本家階級の專恣を助長するが如きは縱令そが副作用なるにもせよ、阻止せざるべからざることである。況んや、一億圓に達する會社資本金を政府に於て據出すべしと云ふが如き、財政上、其の理由を見出すこと能はざるに於てをやである。我が財政には斯る餘裕もなく、又、金融機關創立の上に政府自ら出資する理由もない。蓋し國民一般の利益を直接に增進するの保證は得られないからである。從て貿易金融の資金は之を他の方法に求むべく、利子の補給や、配當の保證或は債券の發行に依賴すべきではないのである。

國際貿易金融株式會社の議決せられて既に五ヶ年、終に其の實行を見るに至

らざるもの其の故なきにあらずと云ふべきである。惟ふに我が國の商業會議所と云ふよりは寧ろ我が實業界の人々は今尙ほ政府に對して强烈なる依賴心を有し、營利的事業を經營するに當りても名を國家社會の休戚に藉りて政府の保護特權を得んとするの弊がある。之れ第一には我が經濟組織は今尙ほ政府の因緣に據りて個人的利益を獲得し得べしと信ぜしめらるゝ理由あり、又其の沿革もあり、第二には苟も我が國家社會に發生する所のものは其の大小となく、凡て悉く國家社會の休戚に直接若くは間接に關係せざるもの之なしと理由付けられ得るにも依れど、斯の如きは之れ決して現代の時代思想に逆行こそすれ、順應するものではないのである。宜しく其の獨立獨行をこそ望ましく、我が國の商業會議所も速に時代の推移を洞察し、其の決議し提案する所のものは自ら實行し得べき確信を有するものに主力を注がれねばならない。何時迄も政府に依賴主義、他力本願主義、特典利益獲得主義では我が經濟界の健實なる進展は望ま

れず、又一部、實業界の私利を圖るが爲めに、實行の見込もなき決議、陳情を唯〻濫發するに止るに於ては公共機關たる其の使命を果す所以でもない。

素より國際貿易金融株式會社の提案は此の筆者が、嘗て我が商業會議所に關係を有したりし頃、自ら執筆、起草したるものなれば、筆者又其の責を有して居り、之を逃れんとするものではない。併しながら、筆者が自ら執筆起草したりしものは比較的稍や公平なるものなりしが、屢々の委員會、並に本會議に於て大に修正せられたることを一言茲に付け加へて置く。

三　既存國際貿易金融機關の改善方法

貿易金融機關の特設や望無く、而も既存の貿易金融機關は凡て貿易金融上の喫緊なる要求を充たすこと能はずとせば、貿易金融の必要は如何にして滿足せしめらるべきや。國際貿易の進展は必要であり、國際貿易發展の爲めには貿易

金融の疏通亦必要條件なる以上、貿易金融は既存の貿易金融機關を改善し、以て其の必要に應ずるの外良法はないことゝなる。然らば既存の貿易金融の機關は如何に改善せらるべきや。之れ最後の問題である。吾人は貿易金融の改善に關する最後の結論として左の方策に依るを最も適當なりと信ずる。先づ結論を述べて次いで其の概略の説明に移らう。

我が國の貿易金融は左の方法に依り改善すること

一、横濱正金銀行を貿易金融の中心機關とすること

二、臺灣銀行及朝鮮銀行を横濱正金銀行に合併すること

三、臺灣銀行及朝鮮銀行を横濱正金銀行に合併する結果として右兩銀行の紙幣發行の特權を取消し、紙幣の發行は全部之を日本銀行に統一せしむること

四、右の對償として日本銀行は臺灣銀行及び朝鮮銀行を合併する横濱正金銀

行に對し貿易資金として低利の資金を融通すること

五、日本興業銀行は一般に工業資金の貸付をなす外に特に輸出品製造に關する工業資金の融通に努むること

之れが爲に日本銀行は日本興業銀行に能ふ限り低利の資金を融通すること

と

六、日本銀行は臺灣銀行及び朝鮮銀行の紙幣發行を統一するの結果、當然增發せらるべき紙幣發行額の外、尙ほ紙幣發行額を增加するの方法を講ずべきこと

四　横濱正金銀行の改善

我が貿易金融機關改善の方針、概要以上の如くである。更らに其の內容を左に說明しよう。

第一。横濱正金銀行を我が貿易金融の中心機關とすることは既存の金融機關を利用する所以で、更らに他の銀行を合併することは其の機關を强大ならしむるもので、種々なる利益が之れに伴ふことゝなる。卽ち

イ。資金の疏通に便利である。由來、我が國に於ては銀行分業論なるもの唱へられ、商業は日本銀行を中心とし、工業は日本興業銀行を樞軸とし、農業は日本勸業銀行を其の機關とすと云ひ、其れ以來、各種の特殊銀行を增設するに至りたるも、此等の銀行は我が金融界にそれぞれ割據するの狀態となり、相互の聯絡不十分にして本來餘りに豐富ならざる我が資金を分割し、其の利用をして寧ろ甚だ不經濟ならしめ、其の效用を十分に發揮せしむること能はざる怨がある。之れ資金の疏通を妨ぐる所以で、斯の如きは我が經濟界の發展に有利なりとするものではない。之を以て此の上、更らに貿易金融の爲めに特殊機關を設くることなく、寧ろ其の反對に既存の金融機關を合併し、横濱正金銀行をし

て主として貿易金融の衝に當らしむることゝすれば、其の資力は强大となり、我が金融界の資金は大いに疏通せられ、利用せられて、綜合的に資金の調節を圖り、緩急互に相調和して其の效用を發揮することゝなる。

ロ。貿易金融機關を統一し、眞に有效なる輸出貿易の奬勵をなすことが出來る。輸出貿易に對する資金の疏通を圖り、輸出貿易の伸張をなさしめんとするには其の金融政策は之を統一するが便利である。然るに現に我が國に於けるが如く、貿易金融機關に各種の銀行あり、互に其の聯絡なきに於ては貿易金融に關する政策は之を統一すること困難である。之を以て横濱正金銀行に他の二特殊銀行を合併し、之を改造するに於ては貿易金融に關する業務を統一し、從て其の金融政策も自ら之を統一し、資金の疏通自由に、國際貿易の助長發展も亦之を期することが出來よう。

ハ。國際貿易の進展の爲め、迅速に其の效果を納むることが出來る。今若し

此處に新たに貿易金融機關を特設せんとするに於ては其の成立には相當の困難あり、相當の時日を要し、直ちに其の作用を開始することは望まれぬ。然るに横濱正金銀行を改造するは比較的容易にして貿易金融上、迅速に其の效果を發揮することが出來よう。況んや横濱正金銀行は現に貿易金融機關として久しき歲月の經驗と、聯絡と、及び組織とを有しつゝあるに於てをやである。横濱正金銀行が貿易金融の中心機關たるは素より當然のことである。

ニ。特殊銀行濫設の弊を避くることが出來る。我が國には特殊銀行の數が餘りに多い。而も其の成績にして良好に且つ國民經濟上、有益なるに於ては尙ほ恕すべしとするも、我が國の特殊銀行にして其の經營を誤り、其の成績の擧がらざるもの少なくはない。其の上、特殊銀行は經濟上の理由以外、政治的にも社會政策的にも又倫理的にも考慮せざるべからざる理由を有する制度である。斯の如き制度は之を擴張するよりも寧ろ縮少すべきものである。之を以て貿易

金融の爲めに特殊機關を增設するよりも特殊銀行を合併して其の改善を圖るべきであると思はれる。

五　臺灣銀行竝に朝鮮銀行の横濱正金銀行合併

第二、臺灣銀行、及び朝鮮銀行は其の原因は兎に角として其の經營を誤り、不良の成績を示しつゝある特殊銀行である。此等の銀行は今や貿易金融の機關として其の經營を繼續しつゝあるも既に右第一に就て述べたる理由に依り横濱正金銀行に合併せしむるを適當とする。然るときは

イ。我が貿易金融機關は統一せらるゝことゝなる。其の效果は既に說述したるが如くである。

ロ。特殊銀行の減少となる。臺灣銀行や朝鮮銀行や特殊銀行として存在する理由、何れにありや。臺灣も朝鮮も我が領土の一部で、經濟上完全に融合せら

るべきものである。而も其の領土にして本國を去ること遠く、氣候風土、人種を異にし、經濟狀態全然特別なる考慮を要するものならば格別なれども、朝鮮の如き臺灣の如き完全なる我が領土にして氣候、風土、人種又我が本國と敢て大差あるものにあらず、且つ其の距離や所謂一衣帶水、極めて密接に接續せるものなれば此處に特殊銀行の存在の理由は甚だ薄弱なりと云はなければならぬのである。現に朝鮮に於ては朝鮮銀行の前には我が內地銀行の一支店を以て彼我の關係を結合しつゝありしものである。否な現今の朝鮮銀行こそ第一銀行支店の其の組織を變更せられたるものである。

殊に臺灣銀行の如き、臺灣の我が領土に歸したる當初其の貨幣制度は我が內地のそれと全然別種のものに屬したる經濟事情の下に於ては、臺灣銀行に於て別種の紙幣を發行するの理由、之ありたれども、今や臺灣も朝鮮も共に其の經濟事情は我が內地と愈々密接なる關係を有し、兩地方共に金を以て價値の尺度

とし、我が內地と貨幣制度を同じくするに至りたるを以て臺灣銀行竝に朝鮮銀行に於て紙幣を發行する特別なる理由を見出すこと能はざるに至つた。之を以て此の兩銀行は今や其の紙幣發行の特權を放棄し、紙幣の發行は凡て之を日本銀行に統一せしむべきである。之れも亦現に日本銀行の紙幣は兩地方に於て完全に流通しつゝあるに依りても明瞭である。

既に紙幣の發行は日本銀行をして之を統一せしめ、臺灣銀行及び朝鮮銀行に其の紙幣發行の特權を放棄せしむるときは此等二銀行の特殊銀行としての存在の理由は大に薄弱となり、更らに其の上に我が貿易金融の業務は之を橫濱正金銀行に統一せしむることゝなさば、此等二銀行の有する爲替業務も其の特有の業務たらざることゝなり、終に此等の二銀行は特殊銀行として存在するのレーゾンデートルを喪失することゝなるのである。之れ橫濱正金銀行に合併せらるるを最も適當なりとする所以なると同時に其れだけ我が特殊銀行を減少せしむ

ることゝなる。

ハ。紙幣の發行を統一することが出來る。臺灣及び朝鮮は既に金本位を採用し、我が日本銀行發行の紙幣にして故障なく流通する以上は特殊の日本銀行以外の銀行に紙幣を發行せしむべき理由はない。而して臺灣銀行竝に朝鮮銀行をして紙幣發行の特權を放棄せしめ、之を日本銀行に統一するときは此處に始めて我が國の紙幣發行は統一せらるゝことゝなり、金融政策、物價政策、其他財政、經濟上の施設を行ふに甚だ便利となる。又之が爲め紙幣發行の特權を有するの故に財界を紊亂することもなく、却て我が內地と朝鮮竝に臺灣の經濟事情を融合せしむることゝなる。

ニ、有利なる條件を以て合併することが出來る。朝鮮銀行竝に臺灣銀行にして紙幣發行の特權を放棄し、之を日本銀行に統一せしむるときは日本銀行は紙幣を增發し得ることゝなり、後にも述ぶるが如く、其の對償として此等二銀行

を合併する横濱正金銀行に對し低利資金を融通することは敢て困難ではあるまい。然るときは横濱正金銀行は其の利益を收得し、其の利益は此等二銀行を合併するより發生するものなれば横濱正金銀行は此の合併に對し、相當有利なる條件を付與すること又敢て困難ではあるまい。斯くして此の合併は比較的容易に行はれ、其の關係者も利益こそあれ、損害を蒙ることは無いのである。

惟ふに理論は正に右の如くである。併しながら此の合併や實際上に於ては可成り實行上の困難を伴ふであらう。但し臺灣銀行や朝鮮銀行は横濱正金銀行と合併するが有利であり、此等の銀行は合併銀行の支店として其の影と形とを止むるや勿論である。

六　日本興業銀行の改善

第三。 日本興業銀行は輸出品製造に對し、工業資金を融通するを肝要とする。

惟ふに本來日本興業銀行は一般に工業資金を融通するを其の職分として創立せられたるものなれども興業債券の發行、意の如くならず、又銀行經營者に工業金融に關する知識と經驗に乏しかりしが爲め、其の途中、却つて外資輸入、或は內資輸出の業務に從事し、我が工業の進步發達に對しては終に未だ顯著なる成績を示さず、其の效果の見るべきものに乏しい。然れど日本興業銀行は工業資金の疏通に今一層の努力をなすべきもので、債券發行の特權を付與せらるゝも此の理由に基くものなれば、若し、其の法規にして株式の取扱上其の賣買を嚴禁せられ、經營上、不當の拘束を受くるものあらば、宜しく之を改正すべく我が工業の進步發展を其の主眼としなければならない。而して我が工業は輸出貿易と密接不離の關係あり、又我が財界の盛衰消長も此の輸出貿易の進展と否とに依りて定まり、輸出貿易の盛衰は輸出工業の消長と重要なる關係を有するものなれば、同じく工業資金の融通にありても、輸出品製造工業に對する資金

の疏通は斷じて之を忽緒に付すべきではなく、其の資金融通の機關は實に日本興業銀行をして之に當らしむべきである。

素より輸出品製造工業にも製絲業の如き、紡織事業の如き其の規模の大なるものもあれば、主として雜貨製造工業の如き所謂家内産業に屬し規模の小なるものもある。而して我が輸出品製造工業は所謂大工業に屬するもの極めて少なくして、多くは小規模製造業なるや云ふ迄もなく、大規模製造業者は相當資力もあり信認も亦從て確實なれば日本興業銀行に依頼するも、普通銀行を利用するも、或は又社債を發行するも工業資金の融通には金融緊縮の際ならざる限り、左程困難を感ずるものではない。現に世界大戰爭後、紡織業者竝に貿易業者連帶保證の下に振出さるゝ利付輸出手形に對しては從前八分の利率なりしものを日本銀行總裁の斡旋に依り、其の利率は六分、期限も亦七ヶ月に延長せられたるの事實がある。然るに小規模輸出製造業者は斯の如き特典を受くること能は

ざるのみならず、所謂問屋より資金の融通を受けつゝある者は日歩七錢の金利を強要せらるゝもの敢て稀なりとせず、其れさへ到底潤澤に工業資金の融通を受くること能はざる狀況である。斯くては小規模製造業者は我が輸出品製造工業者の大部分を占むるものなるが故に、輸出貿易の進展の上より云ふも、將た又、社會政策的見地より云ふも、金融上、甚しき不備缺點を忍びつゝあるものなりと云はざるを得ない。

幸に主要輸出品工業組合法は制定せられ、漸次組合の成立を見るに至るべければ、日本興業銀行は此の組合を利用して工業資金を融通すべく、又大震火災後同銀行は中小工業者に對し工業資金の貸付を開始し、これ又漸次良好なる成績を示しつゝあれば、日本興業銀行は此等の經驗に鑑み其の業務を擴張し、我が財界の繁榮の爲め輸出品製造工業に對する工業資金を融通すべきである。

七　普通銀行の改善

第四。我が普通銀行にも亦、工業資金を融通するを奬勵すべきである。我が國の普通銀行は英國式預金銀行に則り、短期信用を主とする商業、預金銀行の經營的原則を固守して居る。但し、普通銀行に於ても右英國式預金銀行の如く專ら分業的經營方法を執り、短期の預金を取扱ふを主とするものもあれば、獨逸式銀行に於けるが如く普通銀行に於て產業資金の融通の任に當り、兼營的經營方法を採用するものもある。而して此の兩經營の方法は孰れも一得一失ありその詳細は別に論評することゝして並に論及するを避くべきなれど、我が國の如き資本の比較的豐富ならざる處に於ては獨逸式兼營主義を加味するを適當なりと思はる。蓋し斯くして資本を最も有效に利用するを考慮しなければならぬからである。素より普通銀行に於ける工業資金の融通は大なる危險之に伴ふと

云はれざるにもあらざれど、手形の割引、普通短期の貸付にも危險あり、工業資金の貸付にも徒らに株券の賣買に走らざる限り、又貸付を嚴重に監視するを怠らざるに於ては獨逸に於けるが如く必ずしも危險常に之に伴ふものにあらず、却て大に工業、殊に輸出品製造工業の助長發達に資する所あるに相違ない。現に我が國に於ても普通銀行にして工業資金を融通するもの決して稀ではないのである。

八　國際貿易金融資金の充實

貿易金融機關改善の方法、概畧以上說明したるが如くである。金融機關、既に改善さる。次は其の資金は如何にして充實さるべきや。惟ふに貿易金融の資金は本來我が經濟の實力に於て豐富に供給すること困難なるの實情にあり、無より有を生ずること能はざるものなれば、其の資金の供給にも自ら制限あり、

經濟の理論と經濟の實際とを無視して其の資金を潤澤にし、金利を低落せしむること素より之を望むこと能はざれど、我が財界の盛衰消長と國際殊に輸出貿易の增減伸縮は極めて密接不離の關係を有するものなるを以て我が財界の繁榮を期し國民生活の安泰を圖るが爲に、國際輸出貿易を助長進展せしむるの必要あり、そが爲めには貿易資金の能ふ限りの潤澤且つ低利なる供給は絶對的必須條件と云ふべきである。到底日本銀行より横濱正金銀行に融通せられつゝある貿易爲替資金は縱令其の金利は年二分にして其の點は大に低利なりと云ふべきも其の總金額千五百萬圓にては甚しく不充分にして、凡ての經濟事情大に膨脹し爲替資金數億圓に達しつゝある現在に於ては、其の所期の目的を達することは不可能なるや敢て言ふまでもない。

之を以て我が貿易金融の資金は先づ日本銀行の紙幣發行額を增加して、以て之れに應ずるを最も適當なりと信ぜらるる。即ち我が國に於ては現在、日本銀

行の保證準備發行額を擴張すべしとの論議が屢々高調されて居る。其の經濟、金融理論と、實際經濟上の利害得失とは別に研究し批判すべく、今、此處に其の一々に就て詳細に亙り論評するを適當の場所とせず、之を避くべきも、唯漠然、我が經濟界が發達進步し、膨脹したりとの單なる理由のみを以て、保證準備發行額を擴張するは必ずしも理論的に適正なるものなりと肯定し難い。其の發行額を增加するの絶對的必要ありや、又其の增發せられたる紙幣は如何に利用せらるゝやを考慮しなければならない。然らざれば徒らに暴騰したる物價をいやが上に騰貴せしめ、財界を不健實に導くのみにして其の實益や薄弱となる虞がある。保證準備發行額は濫りに擴張すべきものではない。

然れど若し保證準備發行額にして擴張せられ、輸出品製造の爲めに、又、輸出貿易資金として毫も疑なく絶對的に有效に利用せらるゝに於ては其の擴張は經濟上、有利であつても有害なることはあるまい。從て保證準備發行額は之を

增加するも一概に之に反對すべきではない。殊に以上貿易金融機關の改善に際して說述したるが如く、臺灣銀行並に朝鮮銀行にして其の紙幣發行の特權を放棄し、之を日本銀行に統一せしむるに於ては當然、日本銀行は其の兌換銀行券を增發することゝなるべく、此の增發は紙幣の發行を統一する自然的當然の結果なるが、尙ほ此の際、其れ以上の擴張をなすべく、此の發行は保證準備に依るべく保證準備に依る發行は之を發行する銀行の利益を增大するものなれば、日本銀行は之れより利得を納むることを得べく、此の利得は濫りに株主に分配せらるべき性質のものではない。日本銀行は宜しく其の利益の一部は之を國家に上納し、他は其の利益に代へて何等かの犧牲を提供すべきである。而して日本銀行に低利の貿易資金を提供せしむること、之れ卽ち其の犧牲に相當するものである。日本銀行は輸出貿易發達助長の爲め、一方臺灣銀行と朝鮮銀行とを合併する橫濱正金銀行に爲替資金を、他方日本興業銀行に輸出品製造に對する

工業資金を低利に融通するを適當とする。之れ貿易資金の充實方法である。

素より現在に於ても日本銀行は爲替資金として既に述べたるが如く金額一千五百萬圓を年二分の低利を以て橫濱正金銀行に融通しつゝある。併しながら國際貿易、輸出輸入の總計四十八億七千萬圓以上に達し、爲替資金常に數億圓に上る現在に於ては一千五百萬圓の低利爲替資金は寔に九牛の一毛である。但し既に斯る制度存在する以上、此の金額を增加して低利に爲替資金を一層充實せしむべきである。其他、日本興業銀行は輸出品製造工業に對する資金融通の爲め、興業債券を發行すべく、日本勸業銀行も亦勸業債券の發行に依りて得たる資金を一部分は輸出品製造工業の土地其の他の不動產に貸付くべく、普通銀行も亦主として商業的方面に於ける工業資金を融通するの任に當るべきである。斯くして廣き意味に於ける貿易資金は漸次に充實せらるべく、其の充實と共に金利も自ら低下せらるべきである。

若し夫れ右の方法に依るも尙ほ資金の不足を告げんか。日本銀行は始めて保證準備發行額を擴張するを考慮すべく、尙ほ進んではかかる貸付に振り當てらるゝ兌換銀行劵の發行に對しては紙幣發行稅を免除すべきである。斯る擴張はさして有害なること無しと思惟せらるる。蓋し我が經濟界は輸出貿易と既に屢々說明するが如く直接なる關係を有し、輸出貿易の發達助長の爲めにはかなり念ひ切りたる施設をなし、多少の犧牲を拂ふも之を忍ばざるべからざるもので、之れ卽ち我が財界の繁榮、國民生活安定の爲めであるからである。

尙ほ以上述べ來りたる方法に依る貿易資金の充實の外、橫濱正金銀行は臺灣銀行竝に朝鮮銀行を合併して其の資本金を增加すべく、其の上尙ほ資金の增加を圖らんと欲せば、橫濱正金銀行も日本興業銀行も共に其の資本金を增大するの方法もある。此等の銀行は所謂特殊銀行で、今日迄相當の成績を示し、業績を擧げ、信認も亦比較的厚ければ株式の時價も相當高位にあり、資本金の增加

は極めて易々たるものである。且つ又既に說述したる理由により、我が國に於ては政府と特別なる關係を有する特殊會社の株式の募集は殆んど其の種類の如何なるものたるを問はず、募集甚だ容易にして應募者の數、甚だ多數に上るは常に實驗せられつゝあるの事實である。從て橫濱正金銀行に於ても、日本興業銀行に於ても貿易資金充實の爲め、資本金を增加せんと欲するならば、そは極めて易々たるの業たるのみならず、之を公募せんか、忽にしてプレミアムの生ずるは毫も疑なき程に、明瞭に豫想せらるゝことである。之を以て此等の銀行は斯の如き場合に於ては資本金增加の大部分を公募の形式に依り一般より募集すべきである。然るときは此等のプレミアムは銀行特別の收入となるべく、之を積立金となし、貿易資金の融通にも多少の危險素より之に伴ふべきを以て之に對する危險準備積立金となし、其の上、年々純益金の中より其の一部を割き、以て右準備金を增加することゝなさば、銀行は多少大膽に貿易資金融通の業に

從ふことを得べく、我が輸出貿易の助長進歩の上に寄與する所や恂に測り知るべからざる程甚大なるものあるに相違ない。之れ最も適切なる方法なりと思惟せらるる。

或は左の如き場合、新株式の募集は舊株主に割當つべきものなりとの議論も生ずべけれど、政府と特別なる關係を有する特殊會社の場合に於ては必ずしも常に株主の私利のみを主眼とし、標準とするの必要はない。其の一部分を舊株主に割り當つるも其の餘の大部分は公募すべきである。之れ公益上公平なる處置なりと云ふべきである。

九　國際貿易金融機關の業務

貿易金融機關の業務は、貿易金融に長期且つ低利の資金を疏通せしめ、マーヂンを低下し、新市場の開拓、新販路の獲得に關し特別なる金融上の援助を與へ、特に中小輸出業者、並に輸出品製造業者に對し、比較的潤澤なる低利の貿易資金を融通せしむるを主眼とし、其他信用狀の發行、前貸の制度を容易ならしむるに努むべきや素より言ふを俟たない。而して之れが具體的業務としては第一、各種の貿易業者並に輸出品製造業者に對し、直接若くは間接に比較的長期且つ低利なる資金を潤澤に融通すること。第二、輸出業者並に製造業者の連帶ある場合には輸出契約の必要に應じ、特に長期の金融をなすこと。第三、外國購入者が確實なる擔保を提供する場合には直接に購入資金を貸付くること。第四、外國爲替の賣買、取立、引受並に信用狀の發行をなすこと。第五、掛買の場合に於ては資金の許す限り物品代金の一部假渡をなすこと。第六、依賴あるときは資金の許す限り物品代金の立換をなし、又は掛買の場合に於て手形の振出し又は引受をなすこと。第七、輸出入業者、其他政府銀行、會社、船主等の代理又は仲介をなすこと。第八、鐵道、船舶、運河、船渠、港灣、武器、灌

瓦斯、水道、運送、通商、工業、農業、牧畜、林業、鑛業、金融等に關する各種事業の權利を取得、保有又は處分すること。第九、各種企業の調査設計引受及び仲介をなすこと等を其の主要なるものとする。而して掛賣の場合に於て物品代金の一部を假渡するか、若くは物品代金の立換をなすときは之に對して利息を徴收するも其の利率は成る可く低利とすることを要する。

其他、我が國と密接なる關係を有する諸國に對しては我が貿易金融機關が主となりて內外合辨の貿易金融機關を設置するも一方法である。又必要なる場合には政府自ら輸出業者並に製造業者連帶の手形に對しては或は進んで代金の前貸をなし、或は保證をなし、或は損害を補給することも輸出貿易奬勵となる。我が國に於ても補償制度を採用せよとの聲が無いでもない。素より一方法たるには相違なけれど、補償制度は平常の場合に於ては却つて政府に對する我が國、固疾の依賴心を增長せしむるの弊あり、濫りに採用すべきにあらず、又、其の

運用上、震災手形に對する一億圓の補償制度に鑑みるも、銀行は可成、危險を避けんと欲して補償ありと云ひながら、確實なる手形にあらざれば容易に割引せず、且つ其の利率、比較的安からざるを以て必ずしも適切なる制度なりとは云ひ難く、寧ろ貿易金融は補償よりも低利にして潤澤なる融通を主眼とすべく既に以上述べたる方法に依り、自主的に銀行をして貿易金融の衝に當らしめ、政府は間接に之を援助するを適當なりとする。

之れ其の概要である。我が國際經濟的地位を維持し、我が財界の繁榮と國民生活の安定を圖り、益々我が經濟的勢力を海外に伸張せしめんとするには以上述べたる貿易金融機關、並に貿易金融の改善は甚だ必要なりと思惟せらるる。

國際貿易と金融

大五十五年七月十日印刷
大正十五年七月廿六日發行

編輯兼發行者　財團法人　文明協會
右代表者　東京市牛込區早稲田町三十四番地　市島謙吉
印刷者　東京市牛込區榎町七番地　宮坂誠司
印刷所　東京市牛込區榎町七番地　日清印刷株式會社

發行所　東京市牛込區早稲田町三十四番地　財團法人　文明協會

不許複製

文明レクチュア次回豫告

波斯より土耳古へ

文明協會編輯部編

要目

△我國人の閑却せる小亞細亞地方
△ペルシヤの國情と日本との關係
△同教國と同教徒の生活
△土耳古の國情と日本との關係

從來あまりに歐米の問題に走りすぎて、もつと吾々に近い關係のある小亞細亞地方の諸國の間に、吾々の最も注意すべき緊要なる諸國があるにもかゝはらず從來これに着眼する者少く、過去のバルカンの問題は知つてゐても最近の西部アジヤの問題は知らぬ者があるといふ狀態である。政治上、外交上、通商上等の方面から將來吾々の注目すべき問題としてこれらの地方の事情の記述を集錄し敢て豫告以外に玆に一册八月分として刊行することとした。

546
211

終